1/100 scale MASTER GRADE FA-78-1 FULL ARMOR GUNDAM

MG MASTER GRADE

地球連邦軍
増加装甲試験型モビルスーツ
FA-78-1 フルアーマーガンダム
1/100スケール マスターグレードモデル

FA-78-1 FULL ARMOR GUNDAM

©創通・サンライズ

EFSF

FA-78-1 FULL ARMOR GUNDAM

E.F.S.F. PROTOTYPE MOBILE SUIT FULL ARMORED TYPE

1/100 scale MASTER GRADE FA-78-1 FULL ARMOR GUNDAM

MG MASTER GRADE

地球連邦軍
増加装甲試験型モビルスーツ
FA-78-1 フルアーマーガンダム
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2010 MADE IN JAPAN

※写真の完成品は、塗装してあります。

0162376

BANDAI

地球連邦軍MS開発経緯

RX-78-2がもたらしたガンダムの可能性

「V作戦」によって開発された“ガンダム”をはじめとするRXシリーズの成功は、“単体としてのMS（モビルスーツ）”のみならず、母艦から支援メカ、周辺機器や兵装に至る戦術システムをも包含する壮大な兵器体系を構築することとなる。

ジオン公国に対する反攻計画の一環として連邦軍が立案した「V作戦」。これによって開発されたRXシリーズMSのリファレンス、かつハイエンド機である“RX-78-2 ガンダム”は、はからずも民間人の少年たちによって運用され、赫々たる戦果をあげた。そればかりか、パイロットにはNT（ニュータイプ）の覚醒と思しき所見も確認された。非正規の乗員によるWB（ホワイトベース）の運用実績は、連邦軍にとってMS運用の格好のケーススタディとなり、一部の幕僚や開発部局からは非常に歓迎された。軍首脳の中には、レビル将軍の独断専行ともいえるWBの処遇に反発する向きもあったようだが、WBの“戦果”は無論のこと、MSの開発に必要なトライ＆エラーを行う“モルモット部隊”としても機能している事は認めざるを得なかった。

当初、連邦軍首脳部では、機密事項そのものであるガンダムとWBが敵の手に落ちる前に“処分”すべしとの意見も強かったと言われている。しかしその状況は、敵に鹵獲される危険性がある反面、新兵器のトライアルには願ってもない条件が揃っていた。実際“ガンダム”が収集する戦闘データは、当初の想定を上回る優秀さであったとされており、“プロトタイプ”としてのさらなる機能向上や補完を企図した改修案が模索されることとなった。もともと、一部の連邦軍関係者は「V作戦」発動以前から“巨大な人型機動兵器”の開発と、その対抗措置を含む基礎研究ともいえる「RX計画」を発動させており、膨大な数の基礎研究が進行していた。そのような環境を確保できていたからこそ「V作戦」の遂行が可能であったと言っても過言ではなく、実際の開発に於いては、複数のコンセプトと複数の仕様の機体を並行して試作するという手法が採られていた。サイド7におけるトライアルを経て、その仕様ごとのスペックや生産性などの検証は完了していた。あとは重力下における稼働テストを残すのみであり、WBがサイド7に立ち寄ったのはまさにそのためだったのだ。

サイド7出港後のWB部隊の処遇は、ひとえにレビル将軍の意向によるものであり、V作戦自体、彼の意向が強く反映されていたともいわれている。直属の配下としてマチルダ補給隊を擁し、WB部隊に対する例外的な支援に関しても、正規軍をテスト台にはできないとして参謀本部の了解を得ていた。参謀本部にとってWB部隊は厄介者であったが、公国軍による評価が高かったため、囮として最適と判断されていた。レビル将軍はそれを逆手に取り、WB部隊そのものをMS開発に資するためのテストベッドとしたのである。それに関しては、新装備や任務の通達に際し、WB部隊をモルモット扱いしていることを自覚しつつ、彼らに頼らざるを得ない現状を嘆いていたとする記録も残されている。とはいえ、元より「V作戦」には、MSの開発、量産のみならず、運用に伴う検証と進化、改良なども含まれていた。その中で「RX計画」から取捨選択された要素をさらに検証し、実戦データに基づいて“ガンダムのパワーアップ”が図られることとなった。機体にはほとんど手を加えずに済む強化案として開発され、実際に配備されたのが“Gファイター（Gメカ）”であり、一部改装とパーツ変更を伴う手法が“G-3仕様”であった。また、次期主力機の試案として、生産までを見越したプランのひとつがNT-1であった。そして、これらのプランとはまた別の形で、“ガンダム”のさらなる可能性を示唆するプランが提示された。それが、MS=ガンダム単機の兵器としての可能性を模索する「FSWS（Full-armor System & Weapon System=装甲および武装強化システム）計画」であった。

G-FIGHTER

RX-78-3

FSWS計画

地球連邦軍が「V作戦」に続き導き出した兵器開発計画のひとつ。
それはジオン公国軍の戦果に着目し、連邦軍の技術を取り入れた一年戦争後期ならではのMSの装甲/兵装強化案であった。

FSWS計画は、“ガンダム”の実戦投入によって得られた各種のデータに基づいたフィードバックとして成立したプロジェクトであり、先行していた他の各種開発計画とは少しばかり趣が異なる。民間人のアムロ・レイによってもたらされたガンダムの実働データは、アムロ自身が上申する以前から、彼の反応速度に機体が追従できなくなるであろう可能性を示唆していた。これは、初めての補給の時点で、マチルダ自身がアムロの適性に関して明言していたことからも推察できる。パイロットとしての訓練も無しに、マニュアルを流し見た程度で初陣に臨み、ザク2機を撃破したばかりか、“赤い彗星”“青き巨星”“黒い三連星”といった公国軍の名だたるエースパイロットをことごとく退けたのだ。これは驚異的な戦果である。実際に“ジム”系の機体が投入され、“正規の”パイロットの実戦データが蓄積されるに及び、MSに対するアムロの異常といえるほどの適応能力の高さが浮き彫りとなった。その一方で、アムロに匹敵する適性を持つパイロットの存在もわずかながら明らかとなった。逆に言えば、彼らの適性自体が、アムロのもたらしたデータを基準とすることで判明したとも言える。のみならず、再び宇宙へと出撃したアムロは、最高性能のMSであるはずのガンダムの追従性に不満を感じ、予想通り、機体のレスポンスの改善を訴えたのである。しかし、連邦軍が擁するNT関連技術は皆無と言ってよく、唯一の対策が、フィールドモーターをはじめとするアクチュエーター系部材のレスポンスの改善という、純粋にエンジニアリング的な手法のみであった。これ自体、現場レベルでは、旧世紀より続く“KAIZEN”の伝統を継承する企業の職工たちが、モスク・ハン博士のMC（マグネット・コーティング）理論に基づいて自発的に研究していたものをすくい上げた格好であり、RX計画を下支えしていた技術的裾野の広さを証明する事例のひとつに過ぎない。ともあれ、ガンダムの絶大な戦果を受け、連邦軍の上層部は“少数精鋭によるMS部隊”というプランに基づいた機体の調達を命じた。具体的には、MSの単機当たりの攻撃能力を“戦艦と同等”まで引き上げるというものであった。これは「V作線」の要諦である“MSの量産”および“圧倒的多数による飽和攻撃”を基礎戦術とする連邦軍においては例外的な要請だったが、公国軍の“エースパイロットによる突出した戦果”を被った経験則からの発想なのだろう。無論、あくまで“ガンダム”の性能を足がかりとした“強化案”ではあったが、当時一定の成果を収めていたRGC-80 ジム・キャノンの脚部装甲のノウハウを援用できるメリットもあった。さらに、オーガスタ系の機体開発もそれなりに進展していた時期であり、ましてや、公国軍でもビーム・ライフルのMSへの実装例が増加しつつあった。装甲の強化は喫緊の課題だったのである。無論、新型MSや大掛かりなサポートメカを開発するよりも期間やコストを圧縮できると言う側面があったことも否定できないだろう。

RGC-80 GM CANNON

※この商品にはMG フルアーマーガンダム1セット以外は入っていません。

FA-78-1 開発経緯

Background of the development

フルアーマー・オペレーションの全貌は多くの謎を残したままとなっているが、G-P.A.R.T.S.プロジェクトやC.F.V.の開発計画も含め、一年戦争後の兵器（特にガンダム系MS）開発に多大な影響を与えた。

“V作戦”は、MSの開発量産と、その運用母艦となる強襲揚陸艦の開発建造を行い、同時にその戦術システムを含む兵器体系の創出をも視野に入れた空前絶後の大プロジェクトであった。「Gメカ」を開発した“G-P.A.R.T.S.プロジェクト”は、V作戦の実効性を検証する手段としての側面も持っていた。これに携わっていた技術者たちは「RX計画」に基づいて“ガンダム”の更なる発展を志向していたが、連邦軍は「標準的なMSの早期適正配備」を最優先課題として要請していた。しかし、公国軍の新型MSの開発サイクルが急激に早まったことと、WB部隊の“囮部隊（およびモルモット）”としての運用が（特にアムロ・レイのMSへの“過剰適応”を検証すべく）決定したことを受けて、MS単機のパワーアップが検討されることとなった。技術畑出身の一部の将官などは、アムロの戦績を見て「ニュータイプの発現か？」と色めき立ったとも言われている。ガンダム自体が、RX計画の枠を凝らしたハイエンドMSだったこともあり、当初から“C.F.V.（Core Fighter Variation）開発計画”ともリンクする遠大な構想が立案されていた。その一部を実現させたのが、Gメカを含む“ガンダム・システム”である。これは、コア・ブロックを最小単位とする機動兵器の総合体系であり、陸、海、空、宇宙の各環境においてMSの適応進化を図ると言うものであった。“コア・ブロック・システム”を発展的に拡張した“G-P.A.R.T.S.”構想によって開発されたモジュール群は、各部が執拗なまでに規格化されていた。RXシリーズ各機が互いのA、Bパーツを換装可能であった事を考え併せれば、“ガンダム・システム”の別の側面が垣間見えるだろう。しかし、MSに別のファクターを上積みして行くという手法は、戦争を継続しながら行うには期間もコストもかかりすぎていた。Gメカの運用はそれなりの成果をもたらしたものの、そもそもパイロットが複数必要である事も問題とされた。また、アムロの戦果のほとんどは“ガンダム”単機によってもたらされていた。そこで、現時点で実現可能なガンダムの強化策が検討されることとなったのである。連邦製MS屈指の完成度を持つ“ガンダム”だが、その万能性に起因する問題点がすでに設計段階で指摘されてもいた。すなわち、各部の関節とコア・ブロック・システムを内蔵するボディモジュールの構造的脆弱性である。これらの課題を克服しつつ、戦艦レベルの攻撃力を与える事がFSWSの要諦である。このコンセプトは総じて「フルアーマー・オペレーション」と呼ばれ、それが施された“ガンダム”は「ガンダム・フルアーマータイプ（FA-78-1はフルアーマー・ガンダム）」と呼ばれる。計画案として実働寸前にあったこの増加ウェポンシステムは、計画名を冠した「FSWS」のコードで呼ばれ、これを装着したRX-78にはFA-78-1の呼称が与えられる予定であったという。一年戦争末期に策定された「フルアーマー・ガンダム」のプランは多数にのぼったとされる。最終的には大別して3種類までに絞られたらしいが、当該機の正式な資料は残っておらず、実際的な開発計画としての成果は不明である。ただし、FSWS計画の概要を記した資料には、ビーム・サーベルを腕部の固定装備としたものや、バストライナーと呼ばれる移動砲台と思しきサポートメカが記載され、その他にも、下半身の構造を巨大なブースターとし、固定式のビーム砲を4基装備すると言うMA（モビルアーマー）的な機体も掲出されている。また、公開された時期が異なる別の資料によれば、FA-78-2、FA-78-3（HFA-78-3を含む）と呼ばれる仕様の機体も記載されており、それぞれ「ヘビー・ガンダム」「フルアーマー3号機」との呼称が添えられている。ヘビー・ガンダムには、ガンキャリーと呼ばれるサポートメカや大型の専用火器なども併記されている。一方のフルアーマー3号機は、“ガンダム7号機”に「フルアーマー・オペレーション」を施した機体であるとされ、そのため「フルアーマー7号機」と呼称される事もあり、さらに巨大な機動兵装ユニットを増備した形態も提示されている。

FA-78-1 スペックと武装

Spec and armaments

一年戦争後期に開発された連邦製のMSのうち、アムロ・レイの搭乗を前提として開発された機体がいくつか存在している。それぞれの開発拠点によって、そのアプローチに多少の異同はあるものの、共通しているのは、機体強度とレスポンスの改善、および運動性と機動性の向上が謳われていることである。FA-78-1もその例に漏れず、まずは“MC処理されたガンダム”への装備が前提とされている。増加装甲パーツは、被弾/損耗頻度が高い部位に優先して設置され、胸部、肩部、腰部、腕部、脚部などに脱着可能な形で設計が進められていた。

武装は、背部に可動式の5連装360mmロケット砲と、それを管制する照準デバイス、スラスターシステムなどが一体化したランドセルを装着し、右腕に2連装ビーム・ライフル（ビーム・ガン）、左腕に簡易小型シールド、胸部装甲と脚部装甲にはミサイル・ベイが内装されていた。ビーム・サーベルは、両腕部に固定武装として装備するプランもあったようだが、実際には腰部後方の増加装甲に儲けられたホルダーに2基装備する仕様が最終的なプランだとされている。さらに、装甲の装着による自重増加に伴って低下する機動性を向上させるため、脚部装甲にも補助推進装備が施されている。一脚当りの推力はコア・ブースターのメインスラスターに匹敵するほどで、緊急時の戦線離脱は無論のこと、MA並みの高機動戦闘も可能であったという。開発スタッフからは特に“格闘戦用バーニア”と呼称されていたらしい。また、本機のベースはあくまで“ガンダム”であり、頭部には2門の頭部60mmバルカンが装備されている。ビーム・ライフル、ハイパー・バズーカなどのほか、ガンダム・ハンマー、ハイパー・ハンマーなども問題なく運用できるはずである。ちなみに、“フルアーマー・オペレーション”時には、カーキグリーンとグレーのツートンカラーを基調とした“軍用機然”とした色調の塗装パターンが施される予定であったようだ。

⚠ 注　意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

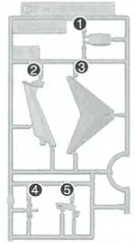
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

パーツリスト（×印は使用しないパーツです。）

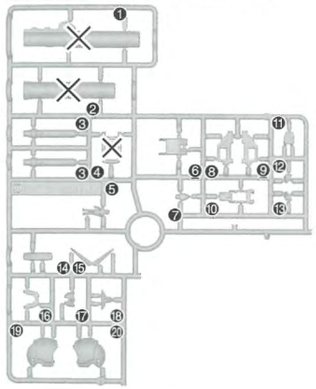
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）

Bパーツ（スチロール樹脂：PS）

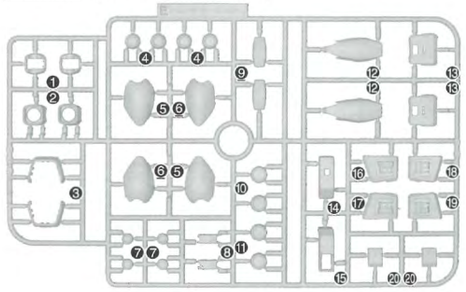
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



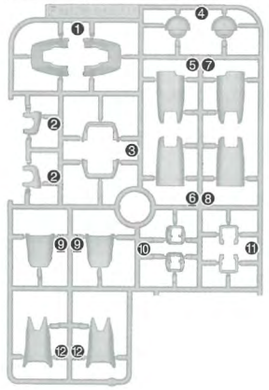
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



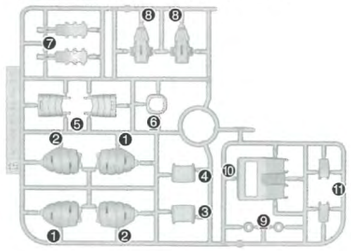
Eパーツ（スチロール樹脂：PS）



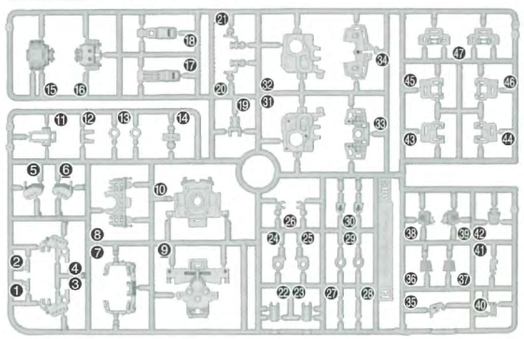
Fパーツ（スチロール樹脂：PS）



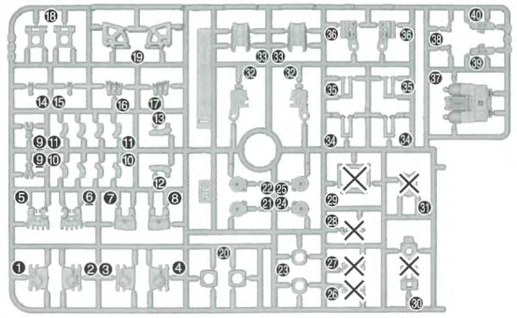
Gパーツ（スチロール樹脂：PS）



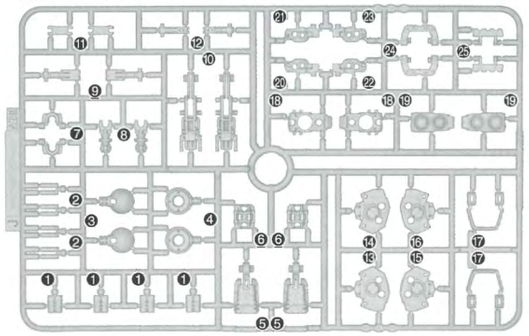
Hパーツ（ABS樹脂：ABS）



Iパーツ（ABS樹脂：ABS）

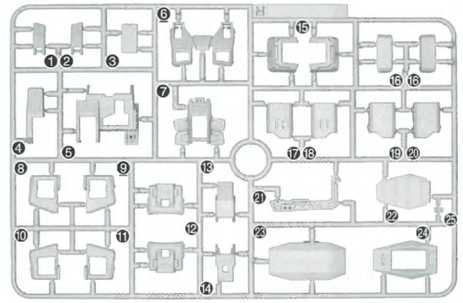


Jパーツ（ABS樹脂：ABS）

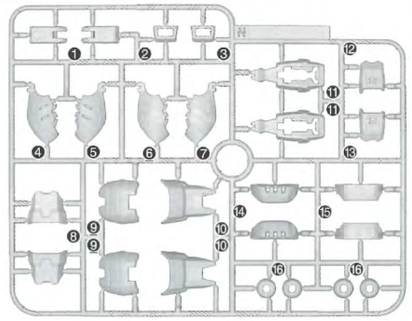


Lパーツ（スチロール樹脂：PS）

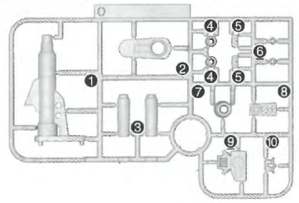
Mパーツ（スチロール樹脂：PS）



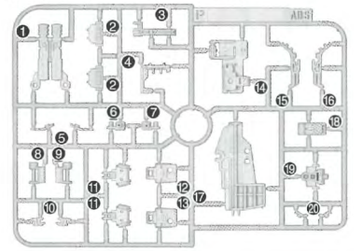
Nパーツ（スチロール樹脂：PS）



Oパーツ（スチロール樹脂：PS）

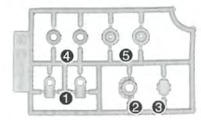


Pパーツ（ABS樹脂：ABS）



SB1パーツ（スチロール樹脂：PS）

PC-202パーツ（ポリエチレン：PE）



ゲルシート（ポリウレタン：PU）

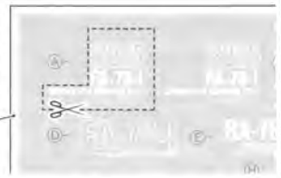
※ の部分は予備です。

カラーシール……1枚
マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚

組み立て前の基本説明

ガンダムデカールの貼りかた

❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



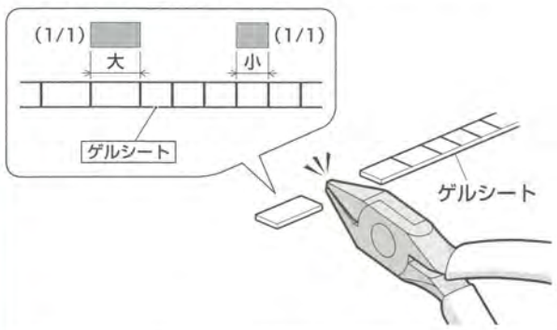
❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

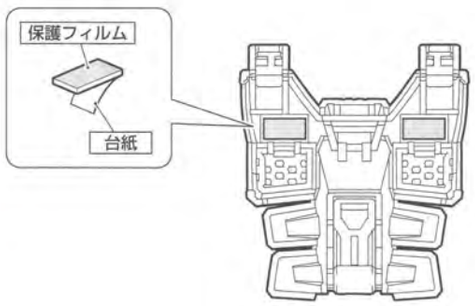
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

ゲルシートの使用方法

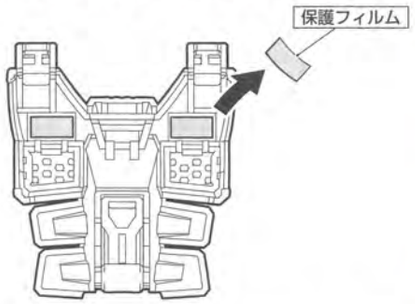
❶ゲルシートは、線にそって、両面のフィルムをつけたまま、ニッパー等で切り離します。（粘着面にできるだけ触れないよう、ピンセット等を使うとキレイに貼れます。）
（大きさは2種類あります。）



❷台紙をはがしたゲルシートをパーツに貼って、**圧着させます。**

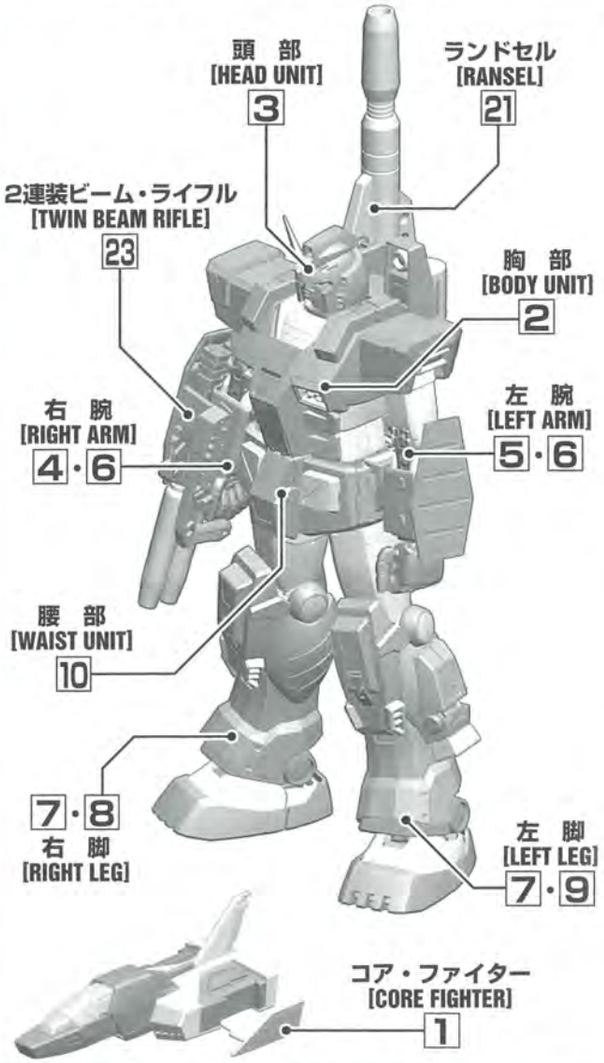


保護フィルムをはがしてから、装甲を装着します。



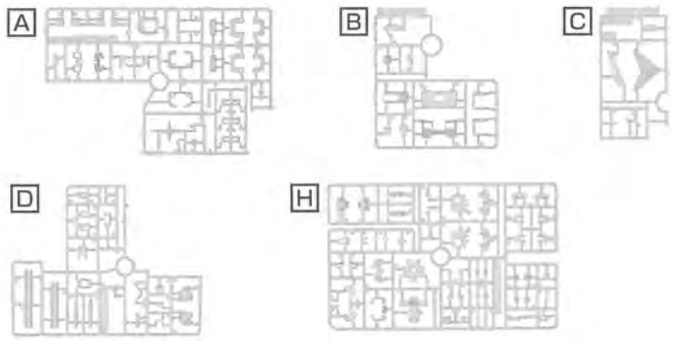
※ゲルシートにホコリ等がついた場合は、セロハンテープ等を使って取ってください。

説明書をよく読んで完成させましょう

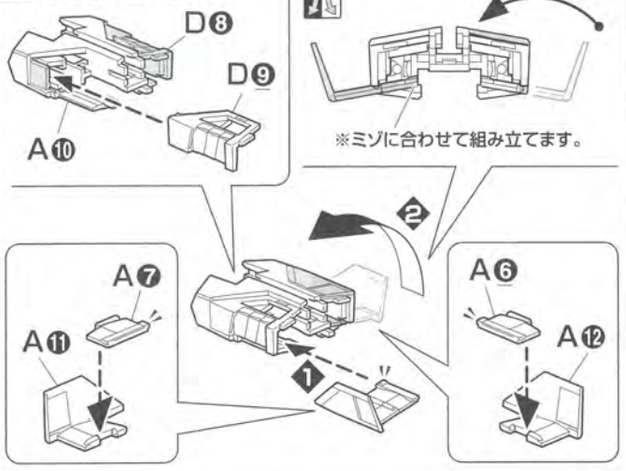


1 CORE FIGHTER

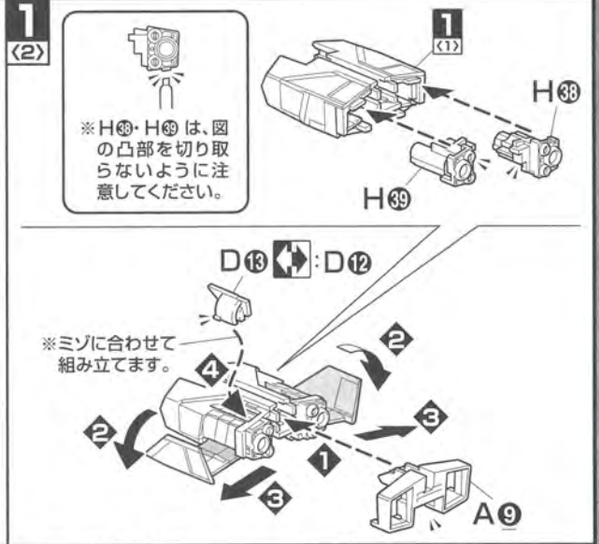
・組立1で使用するパーツ



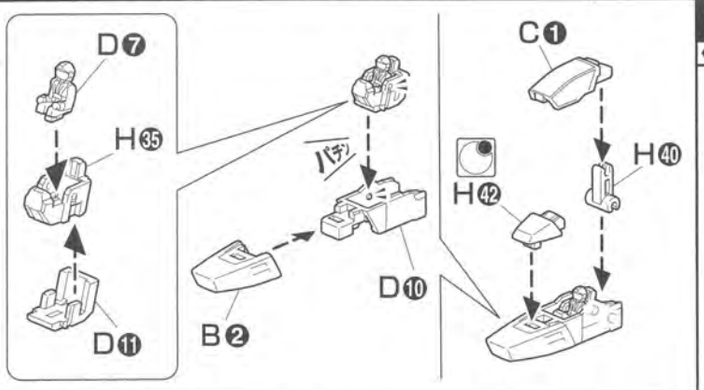
1〈1〉〔コア・ファイターの組立〕 CORE FIGHTER



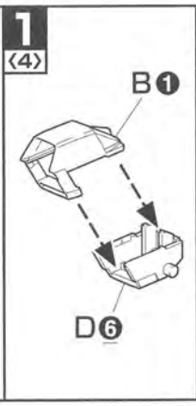
1〈2〉



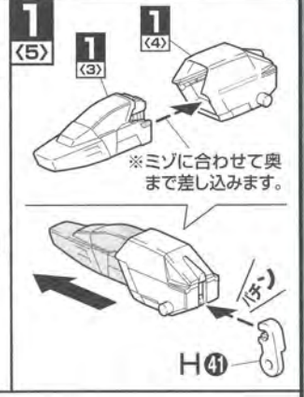
1〈3〉



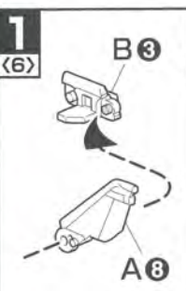
1〈4〉



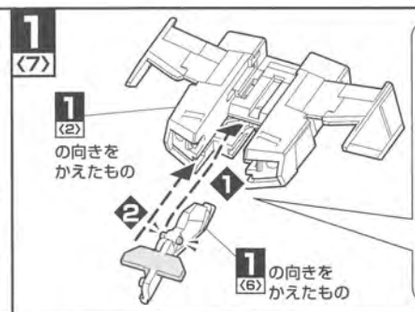
1〈5〉



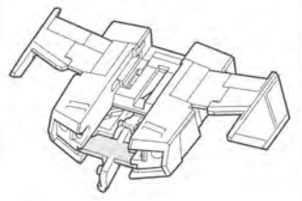
1〈6〉



1〈7〉

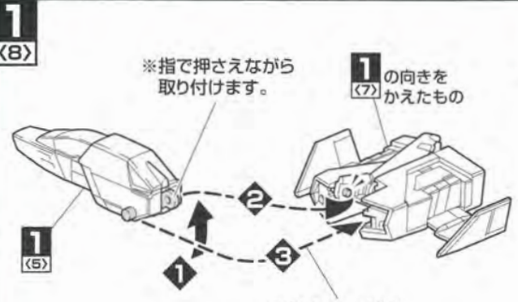


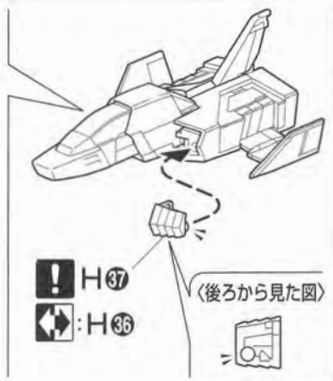
※□部分の位置に注意して組み立ててください。



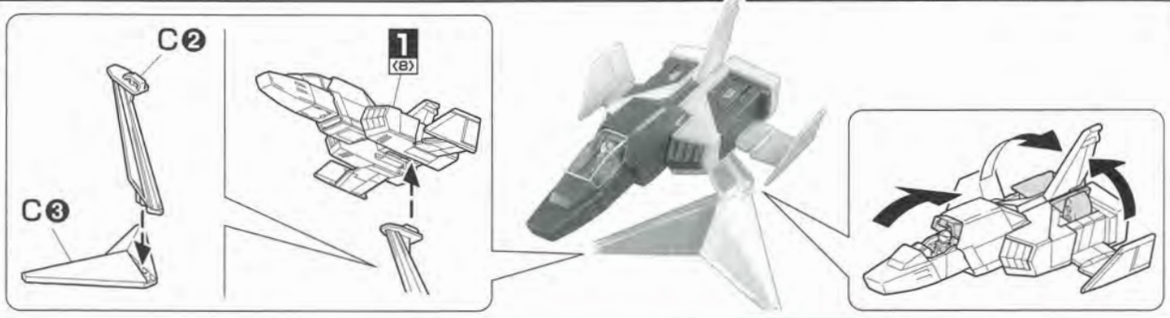
※組立図中の記号説明

1 〈8〉



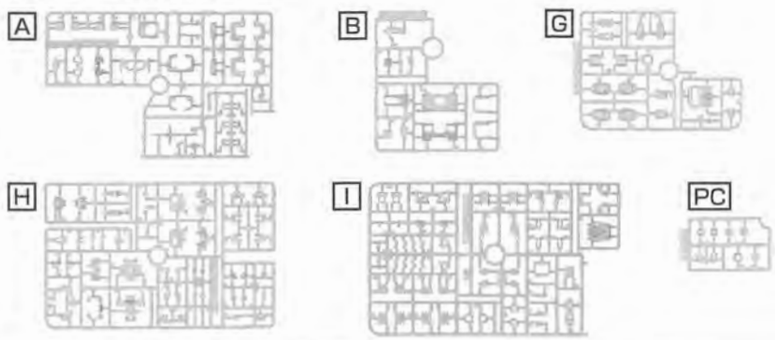


1 〈9〉

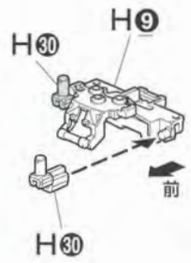


2 BODY UNIT

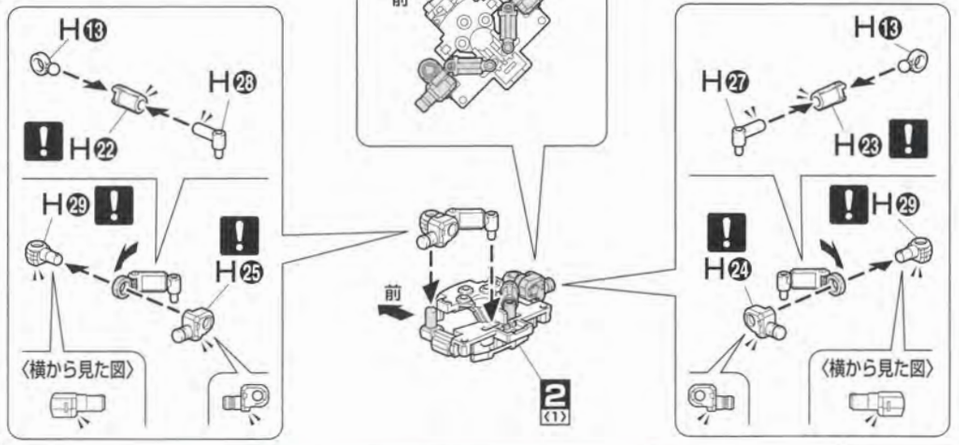
・組立2で使用するパーツ



2 〈1〉 〔胸部の組立〕 BODY UNIT

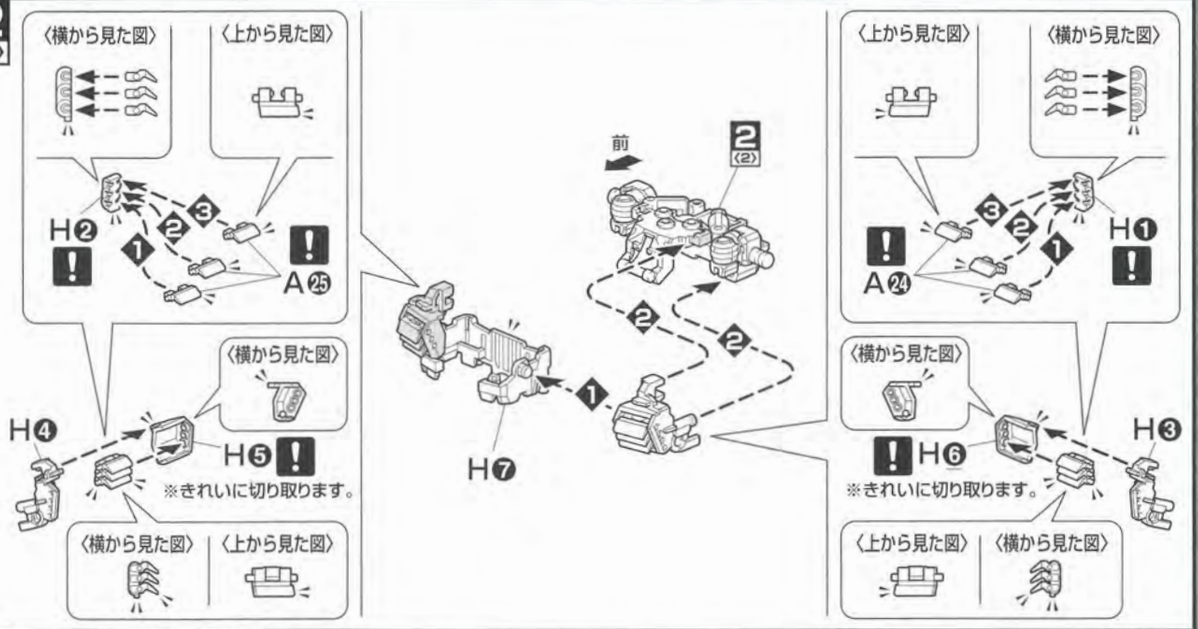


2 〈2〉

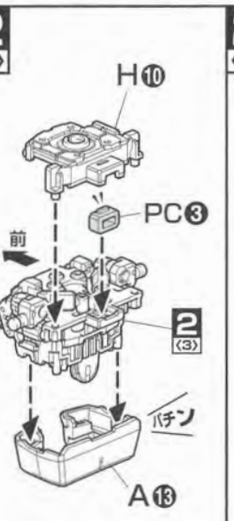


※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
反対側に取り付けるパーツ

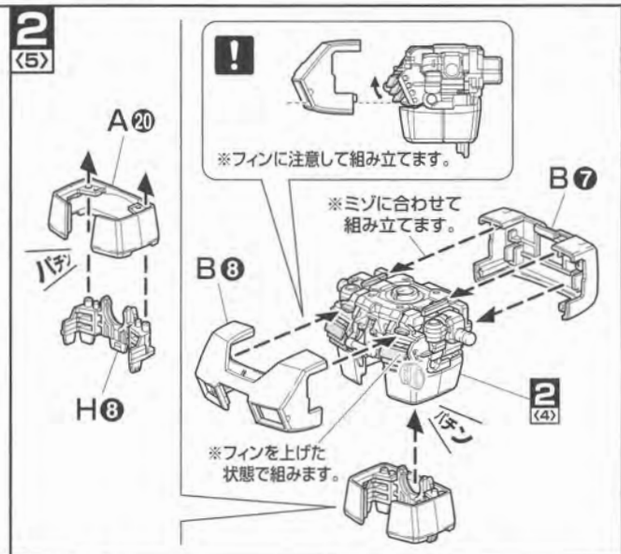
2 〈3〉



2 〈4〉

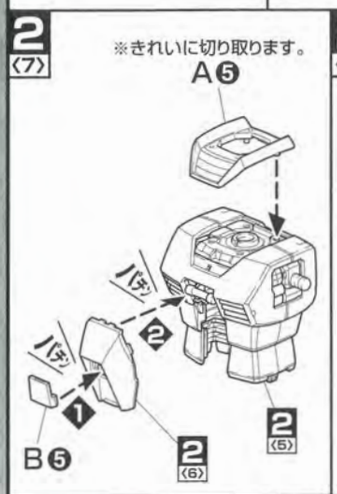


2 〈5〉

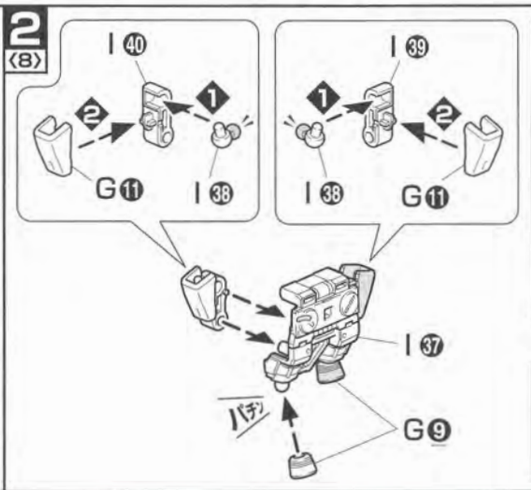


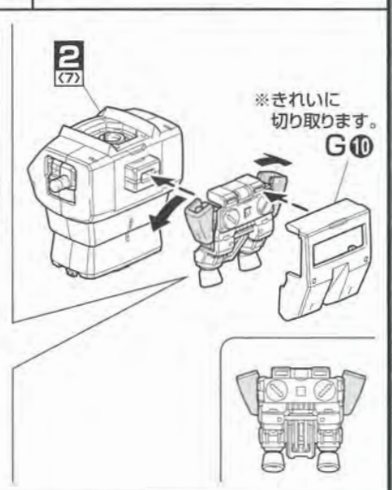
2 〈6〉

2 〈7〉



2 〈8〉

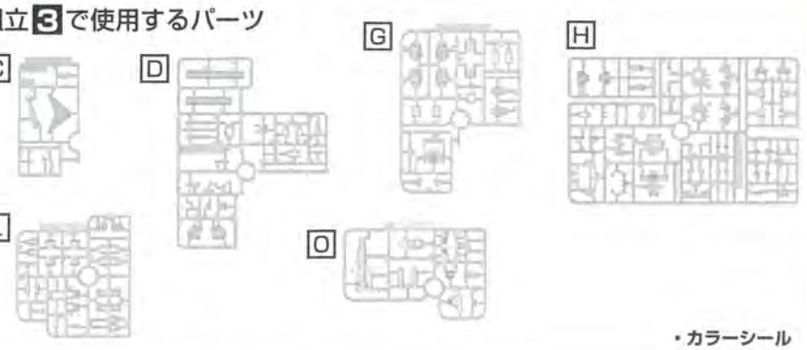




※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
90° 数値に合わせて回転させます。

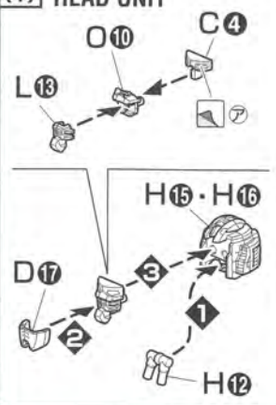
3 HEAD UNIT

・組立3で使用するパーツ

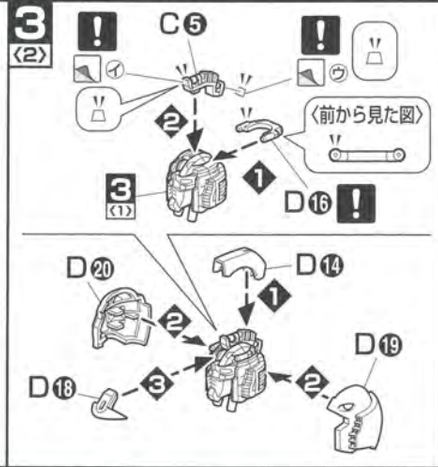


・カラーシール

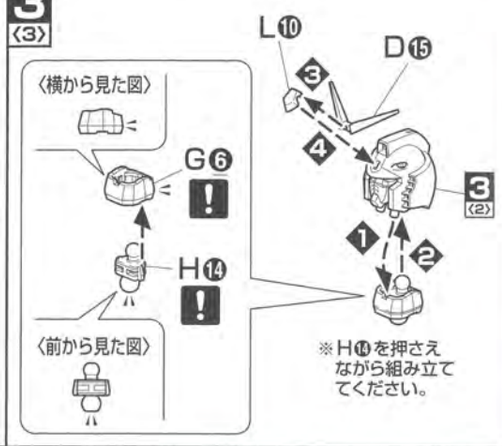
3 〈1〉〔頭部の組立〕 HEAD UNIT



3 〈2〉



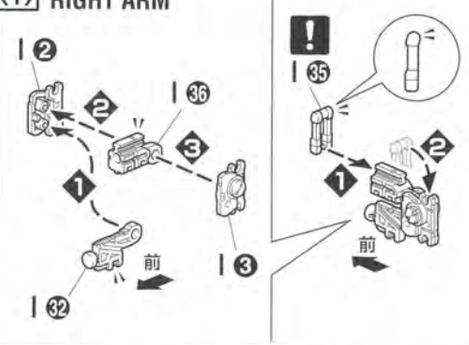
3 〈3〉



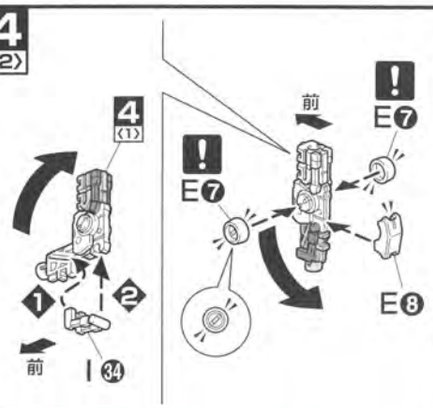
4 5 6 ARM UNIT

・組立4・5・6で使用するパーツ

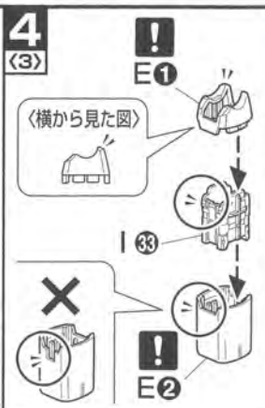
4 〈1〉〔右腕の組立〕 RIGHT ARM



4 〈2〉

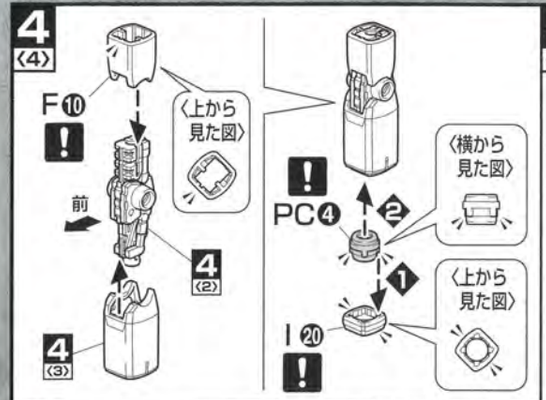


4 〈3〉

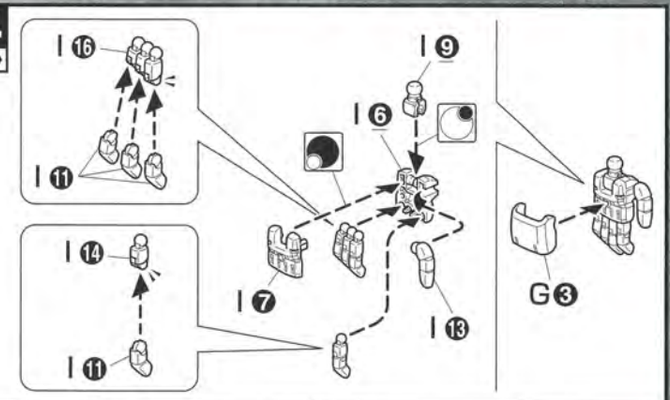


※組立図中の記号説明　ア シールの番号　向きに注意して組み立てる

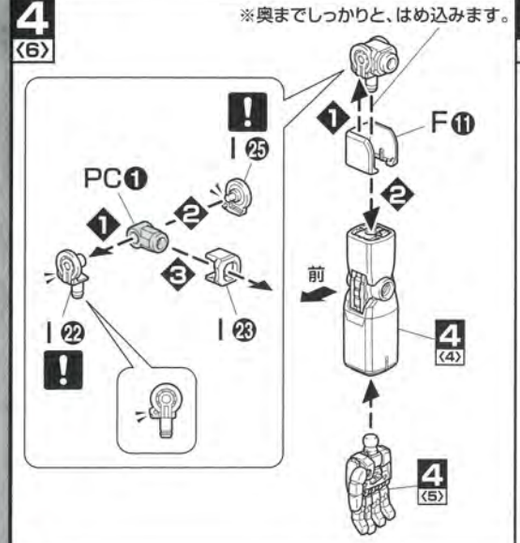
4 〈4〉



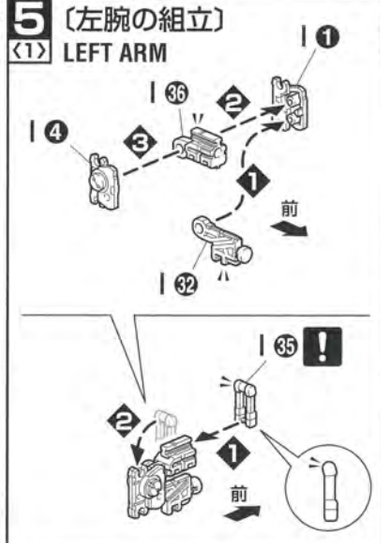
4 〈5〉



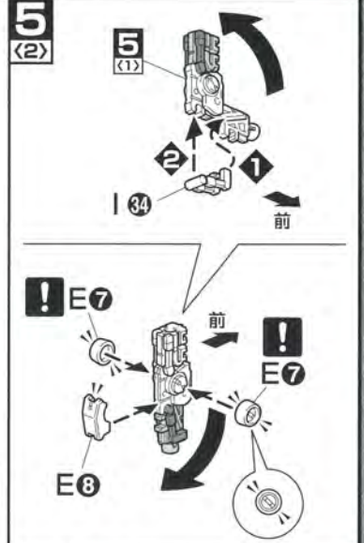
4 〈6〉



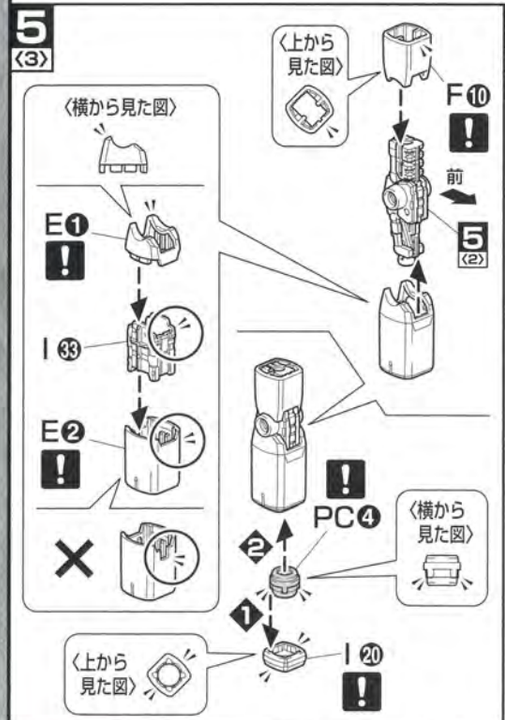
5 〈1〉〔左腕の組立〕 LEFT ARM



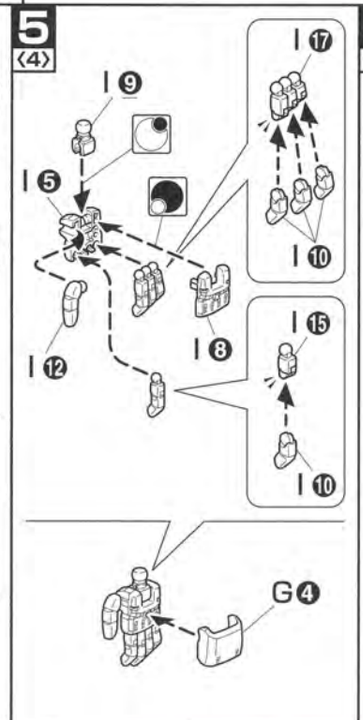
5 〈2〉



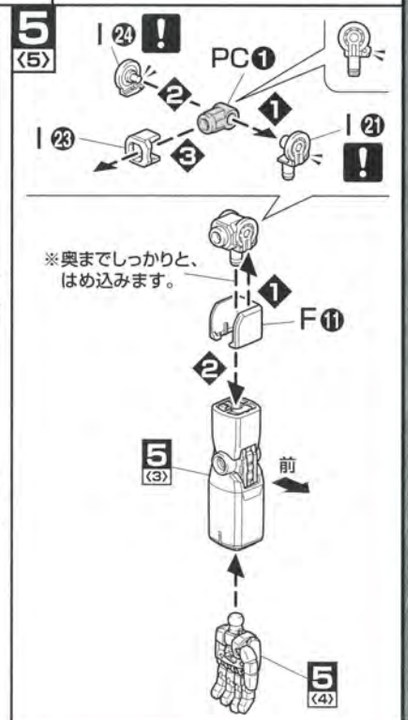
5 〈3〉



5 〈4〉



5 〈5〉



※組立図中の記号説明　向きに注意して組み立てる　先に組み立てる　後から組み立てる

MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)

Countless urban legends

「宇宙世紀0083(ダブルオーエイティスリー)。MS-06RとMS-14Cからなる重機甲MS部隊は、重要機密を奪取すべく、サイド7に対し奇襲作戦を開始した……」ナレーションに続き、ザクⅡ 高機動型等、数機のMSが画面をよぎる。目指しているのは建造途上のコロニーだろうか。その後、宇宙港のシャッターが開放され、フルアーマー・ガンダムが姿を表す!!

戦中には、あからさまな戦意高揚策として、エースパイロットを人類の進化を体現するニュータイプとして祭り上げる風潮すらあったのだが、報道に対する政府のスタンスは常に抑圧的かつ朝令暮改で、ニュータイプの話題はすっかり沙汰止みとなっていた。終戦直後から大量に製作されたドキュメンタリーや再現ドラマなどの各種コンテンツは、連邦政府を称揚するものからジオン脅威のメカニズムを総覧するものまで、あらゆる視点によって構成されていた。中にはジャーナリストを自称する有象無象の山師が、自らの妄想を開陳する掃き溜めのようなアングラサイトも無数に存在していた。中でも、MSに関する"陰謀"や"新事実"を巡っては、これらの情報には意図的な機密情報のリークも含まれているなどとする、まことしやかな都市伝説もついて回っていた……。

The king of urban legend

一年戦争末期、ジョニー・ライデン少佐率いるMS部隊と、特別仕様のガンダム部隊が接触した記録が発見されたという。いわく「歴史を塗り替えるために数多の勇者が消え、そしてまた英雄が生まれる。ジョニー・ライデン少佐。今また、フルアーマー・オペレーションのガンダム部隊との壮絶なる戦闘へ…」感傷的なジュブナイルから、常識のボタンを掛け違えたかのような自称大河ドラマ、噴飯ものの架空戦記など、戦争を巡る物語はそれなりの支持を取り付けていた。例えば、とある作家の歴史観が史実として人々に認知されていた例など枚挙に暇がない。戦後の政府の方針などと相まって、虚々実々の多様な情報を大量に消費させる事で、人々の記憶は散逸する。匿名の電子掲示板などと同様、「一年戦争」は急速に"過去の歴史"として消費されていった。中でも最もエキセントリックな"ネタ"こそ、パーフェクト・ジオングVSフルアーマー・ガンダムの一戦だろう。どちらも"その実在が疑わしい"とされている機体である。だがしかし、その実在を伺わせる資料や見解が存在する一方で、"無かった事の証明は不可能"である。これは「悪魔の証明」と呼ばれ、あらゆることに適応可能な"数少ない真実"のひとつなのだ。

※写真はイメージです。

PAINTING〔塗装〕 FA-78-1 フルアーマーガンダム 指定色

- 本体ホワイト部の塗装色 ホワイト(95%) +ミッドナイトブルー(5%)
- 本体レッド部の塗装色 シャインレッド(80%)+ホワイト(15%) +ココアブラウン(5%)
- 目の塗装色 クリアイエロー(100%)
- 本体グリーン部の塗装色 オリーブドラブ(50%)+グリーン(45%) ホワイト(5%)
- 武器等メタリック部の塗装色 黒鉄色(70%)+ニュートラルグレー(20%) +ブラック(10%)
- 額センサーなどの塗装色 クリアレッド(100%)
- 本体オレンジ部の塗装色 オレンジイエロー(90%) +ホワイト(10%)

※よりリアルに仕上げたい方は、上の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。
※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

連邦軍テストパイロット一例

ノーマル・スーツ

- ノーマル・スーツの塗装色 イエロー(70%)+ホワイト(30%)
- ノーマル・スーツ ラインの塗装色 すみれ色(60%)+ニュートラルグレー(40%)
- ノーマル・スーツ 襟などの塗装色 ブラック(100%)
- ベルトなどの塗装色 ホワイト(100%)
- バイザー部の塗装色 エメラルドグリーン(50%)+スカイブルー(30%) +ホワイト(20%)
- シートベルト部の塗装色 グリーン(80%)+インディブルー(20%)

パイロットA

パイロットB

本商品は地球連邦軍の一般的なノーマル・スーツ色指定を採用しています。

ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。

【before】 【after】

FA-78-1 FULL ARMOR GUNDAM MECHANISM

FSWS計画によって考案された本機は、RX-78に増加装甲、固定兵装、補助推進装置を設けることにより、RX-78 1機あたりの攻撃力を戦艦一隻分まで引き上げるというものであった。

Missile Bay
◀胸部装甲に内装されたミサイル・ベイには合わせて6機の弾頭が配されている。

360mm Rocket Cannon

Twin Beam Rifle

Sub Thruster

▲重装甲化によって低下した機動力を補うために脚部には補助推進装置が装備されている。

※写真はイメージです。

Missile Bay

▲両膝アーマーのミサイル・ベイにはミサイルが2機ずつ装填されている。

MODEL NUMBER :
FA-78-1
Height :18.0m
Weight : 62.5t
Armor materials :
Luna titanium alloy

▶戦艦一隻分の攻撃力と同等まで引き上げることを目的とされた本機の固定兵装は、背部に可動式の5連装360mmロケット砲と、それを管制する照準デバイス、スラスターシステムなどが一体化したランドセルを装着し、右腕に2連装ビーム・ライフル(ビーム・ガン)を有する。

MOBILE SUIT VARIATION MSV

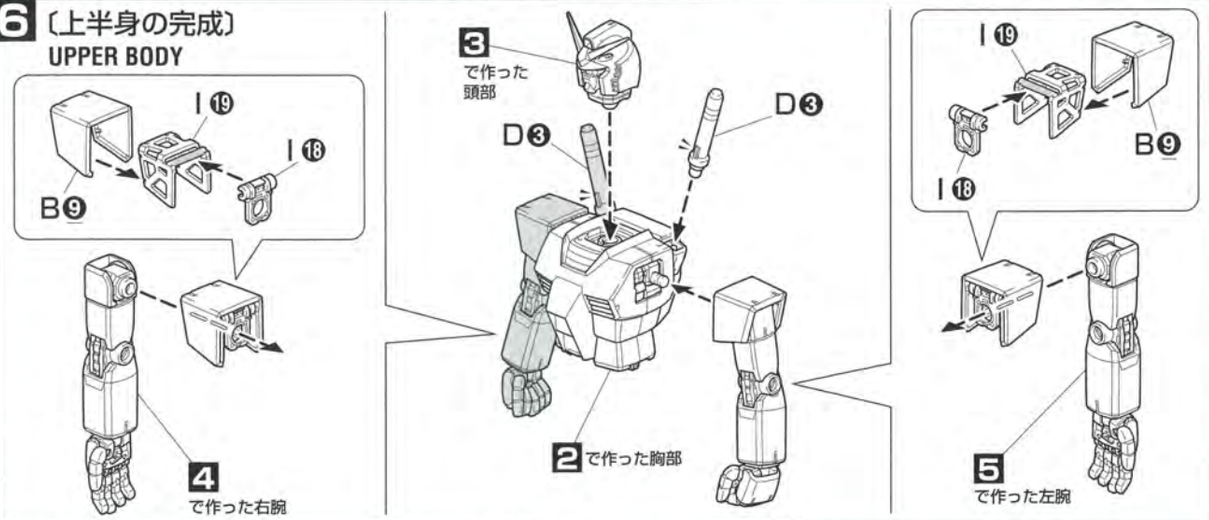
MSV(モビルスーツ・バリエーション)は1980年代に"ガンプラブーム"を背景に生まれた企画で、当時の模型情報誌やムック本などにも数々のバリエーションとエースパイロットの機体が掲載され、ガンプラファンの圧倒的な支持を受けキット化された商品である。

MSVはリアル感、ミリタリー感が一味違ったガンプラの楽しみ方を感じさせた商品だったが、中でも人気のあった「ジョニー・ライデン専用ザク」「フルアーマーガンダム」などは当時のテレビCMで対決するなど、MSVがアニメのストーリーとは別の"if"の世界を楽しむ事ができる商品であったことも、当時のガンプラファンには魅力的だったに違いない。

当時の商品とパッケージ、パッケージのデザインにはミリタリーテイストが感じられる。また、1/100 フルアーマーガンダムのパッケージには、パーフェクトジオングらしき機体が描かれている。

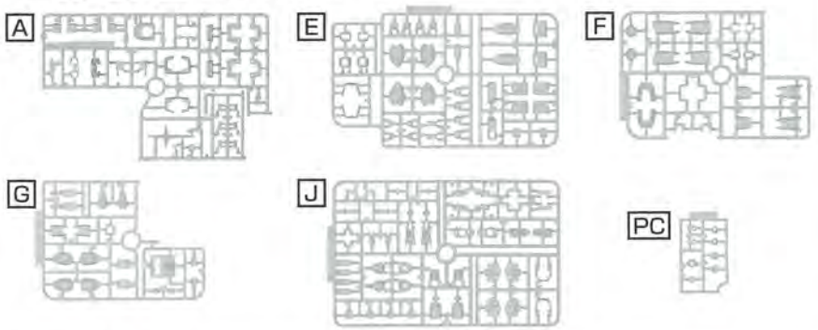
マスターグレード
MS-06R-2
ジョニーライデン専用ザク Ver.2.0(別売り)

6 〔上半身の完成〕 UPPER BODY

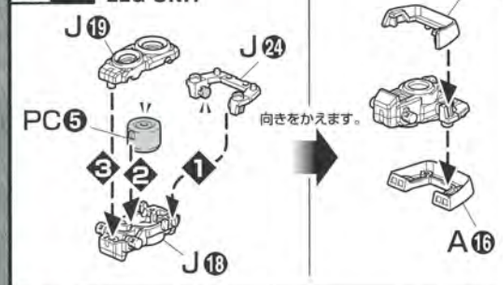


7 8 9 LEG UNIT

・組立 7・8・9 で使用するパーツ

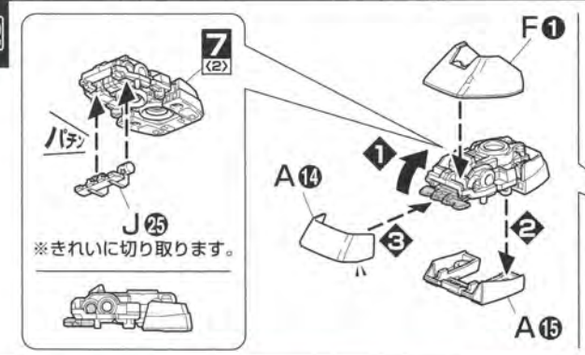


7 〈1〉 ×2 〔脚部の組立〕 LEG UNIT

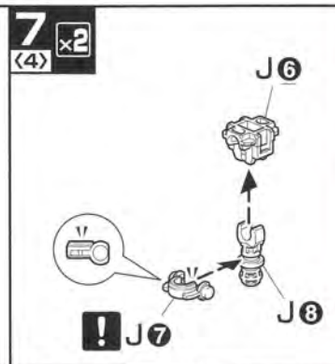


7 〈2〉

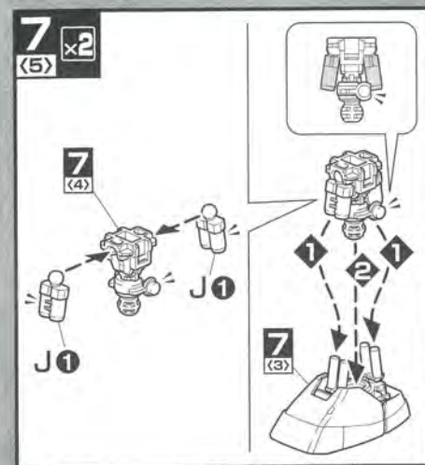
7 〈3〉 ×2



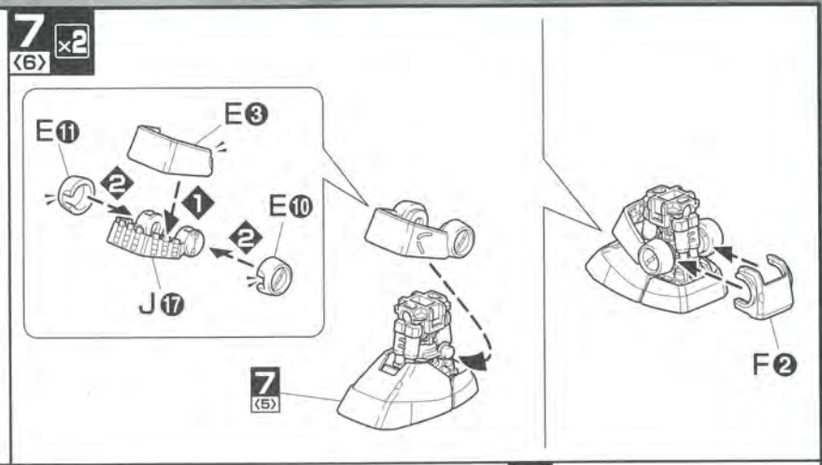
7 〈4〉 ×2



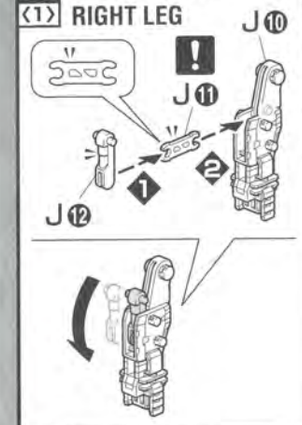
7 〈5〉 ×2



7 〈6〉 ×2

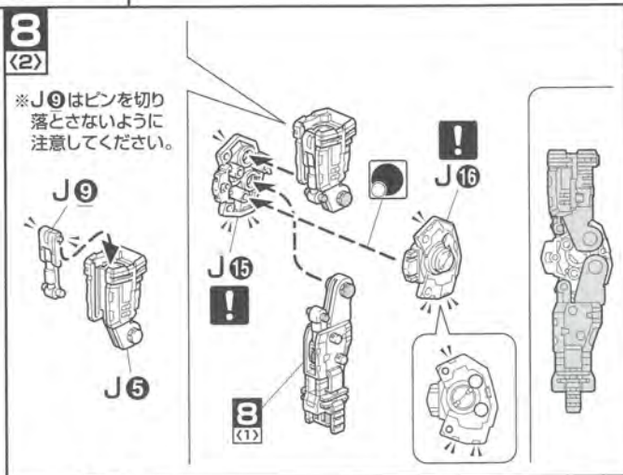


8 〈1〉 〔右脚の組立〕 RIGHT LEG

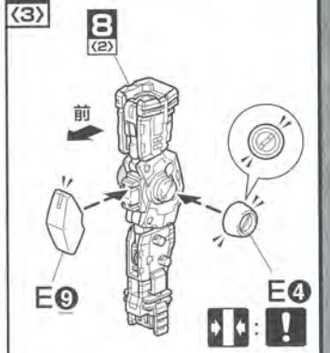


8 〈2〉

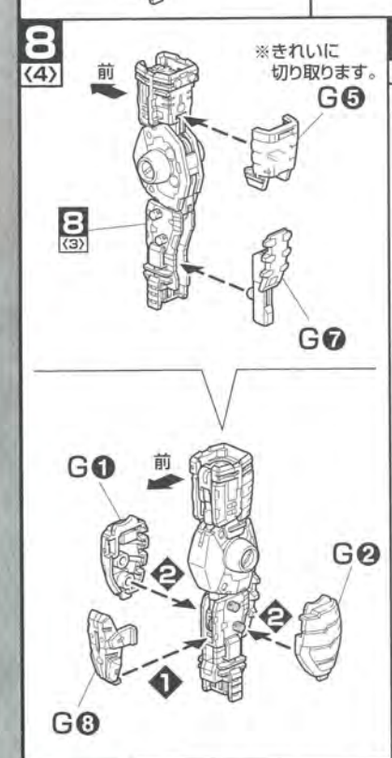
※J❾はピンを切り落とさないように注意してください。



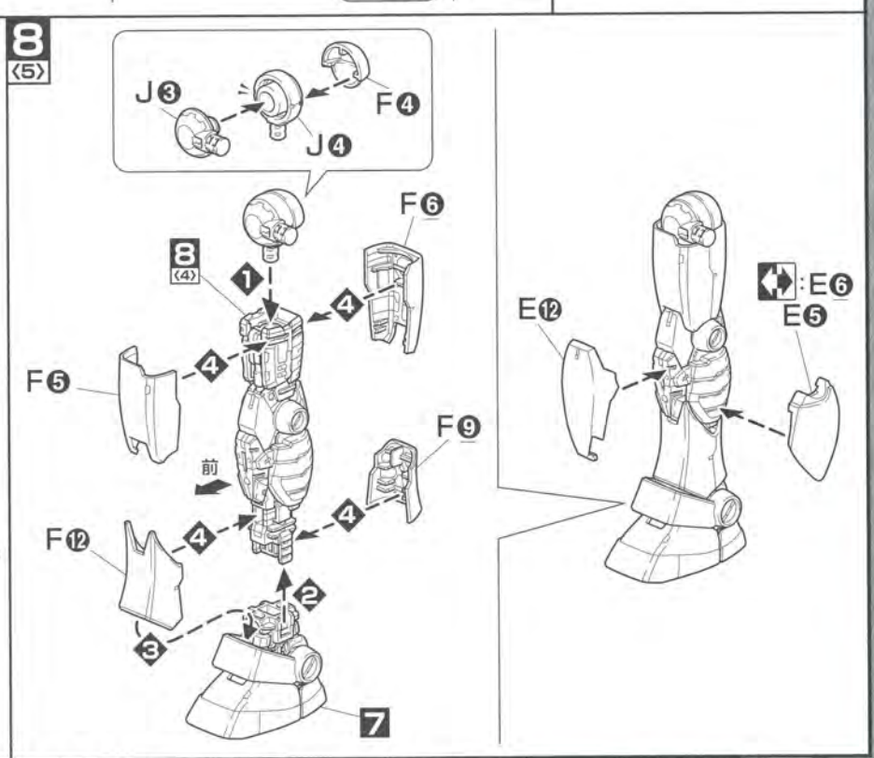
8 〈3〉



8 〈4〉



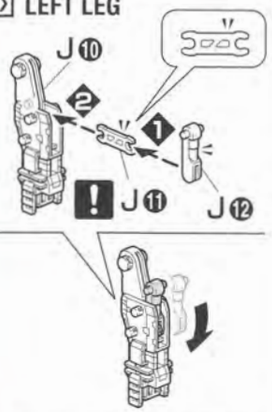
8 〈5〉



※組立図中の記号説明
- ! 向きに注意して組み立てる
- ×2 部品を数値の個数作ります
- 両側に同じパーツを取りつける
- 反対側に取り付けるパーツ
- 後から組み立てる

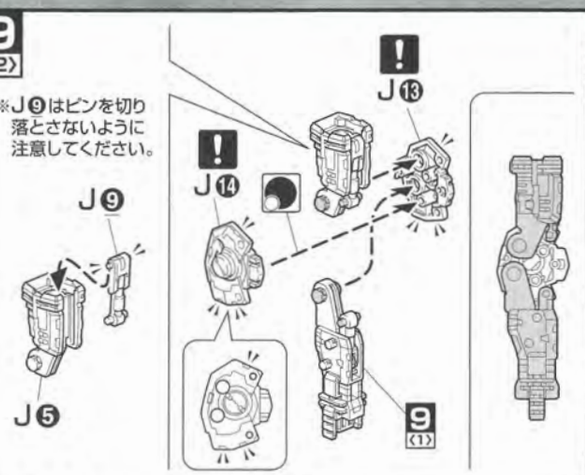
9 〔左脚の組立〕 LEFT LEG

〈1〉

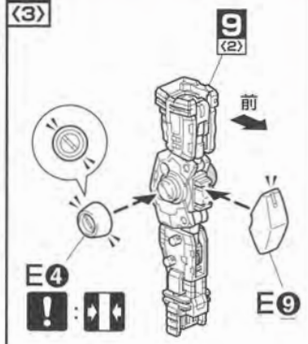


〈2〉

※J⑨はピンを切り落とさないように注意してください。

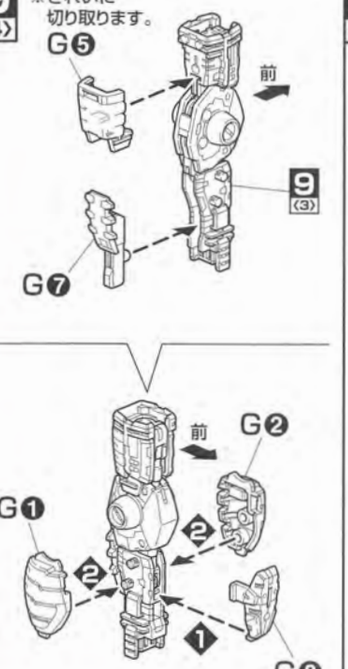


〈3〉

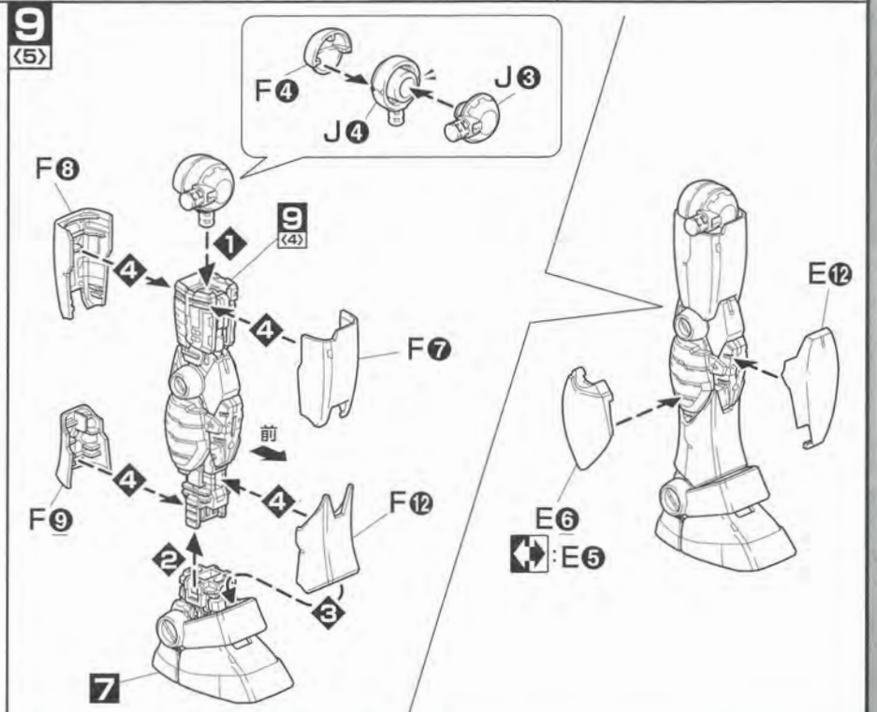


〈4〉

※きれいに切り取ります。

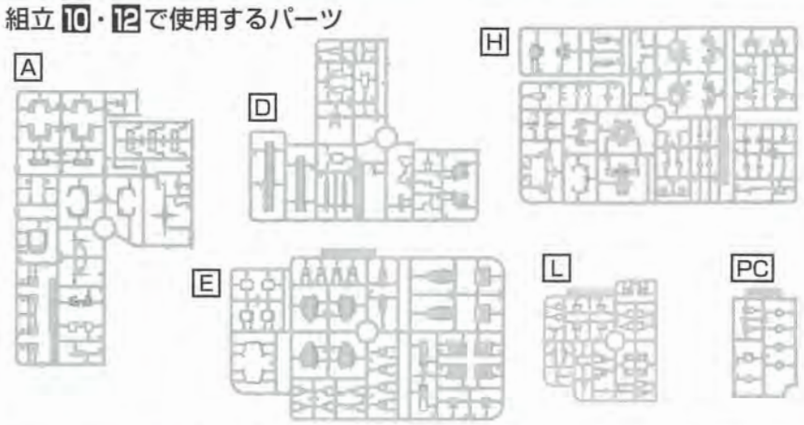


〈5〉



10 WAIST UNIT

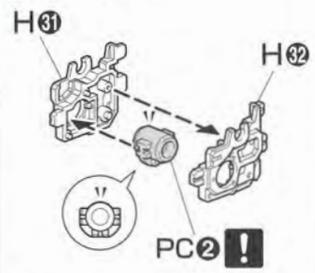
・組立 10・12 で使用するパーツ



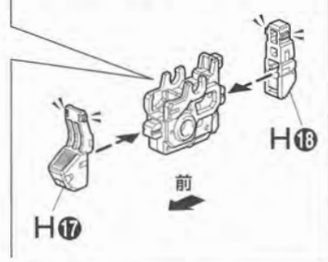
※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
後から組み立てる
両側に同じパーツを取りつける
反対側に取り付けるパーツ

10 〔腰部の組立〕 WAIST UNIT

〈1〉

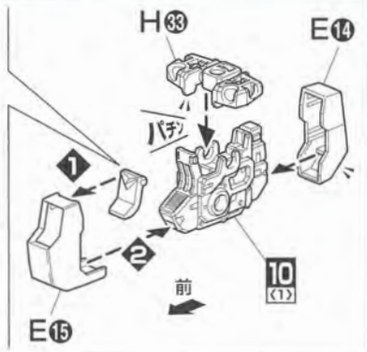


※H⑰・H⑱は▭部分を切り取らないように注意してください。



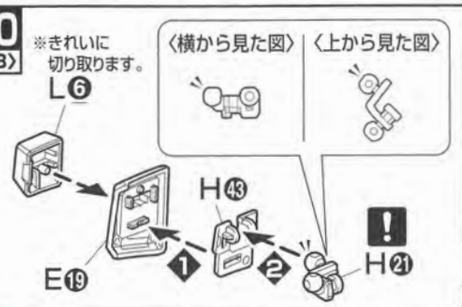
〈2〉

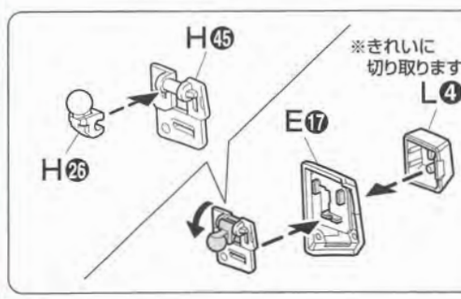
※A㉕は、ピンを切り取らないように注意してください。

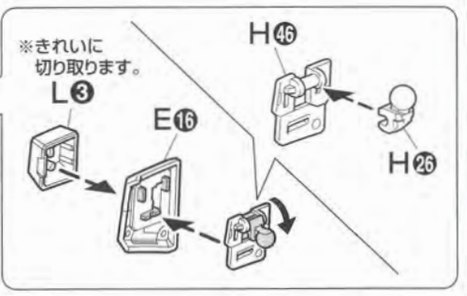


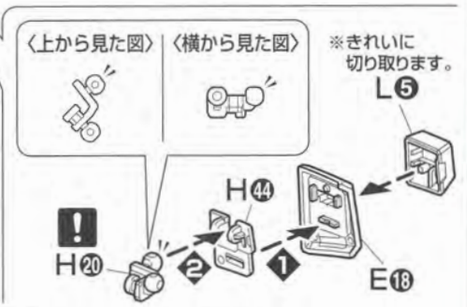
〈3〉

※きれいに切り取ります。

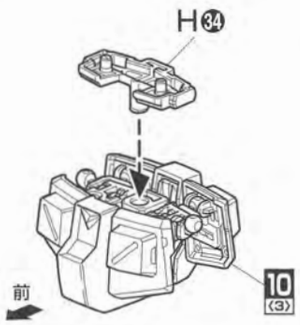




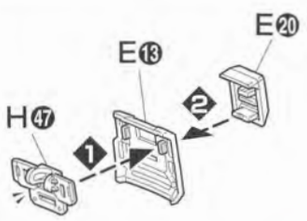




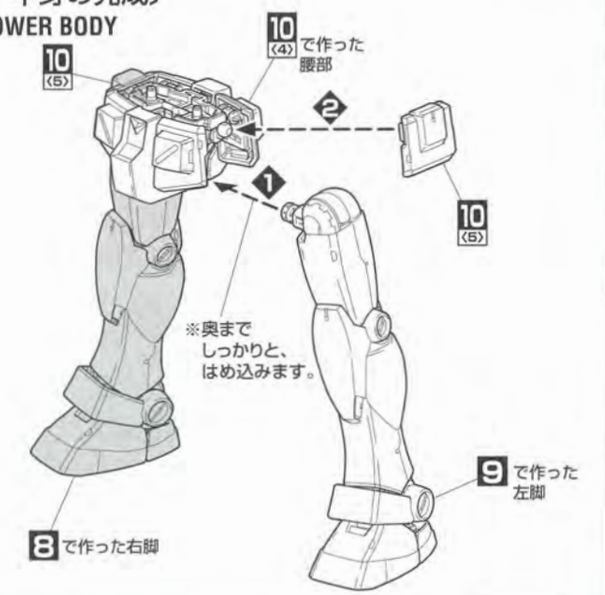
〈4〉



〈5〉 ×2



11 〔下半身の完成〕 LOWER BODY



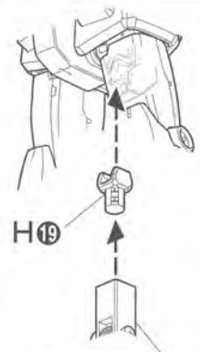
※組立図中の記号説明
! 向きに注意して組み立てる
×2 部品を数値の個数作ります

12 〔合 体〕 COMBINE

※コア・ファイターを台座から外しておきます。

1 で作った コア・ファイター

※元に戻す場合は、図の部分を指で押さえながら注意して戻してください。



※バンダイプラモデル アクションベース1（別売り）を使用してディスプレイできます。

※D❺は、好みの場所に飾ってください。

〈コクピットシャッターの開け方〉

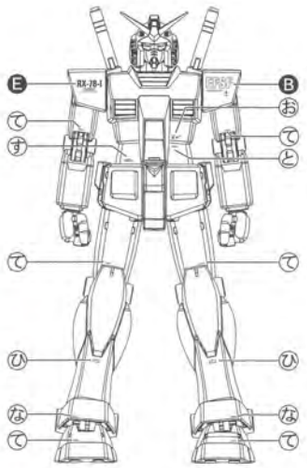
〈コクピットブロックの開け方〉

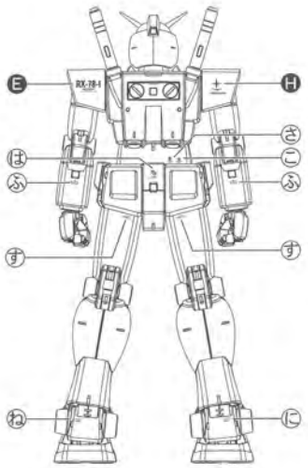
Seal
〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

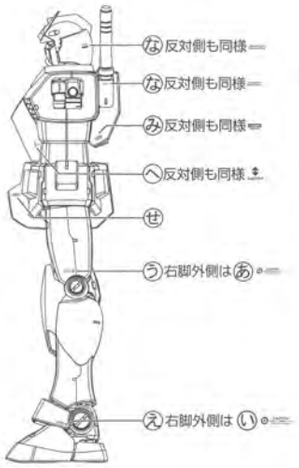
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。
【例】あ・・・マーキングシール Ⓐ・・・ガンダムデカール

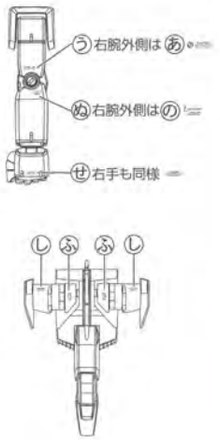
【ガンダムデカールの貼りかた】
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。







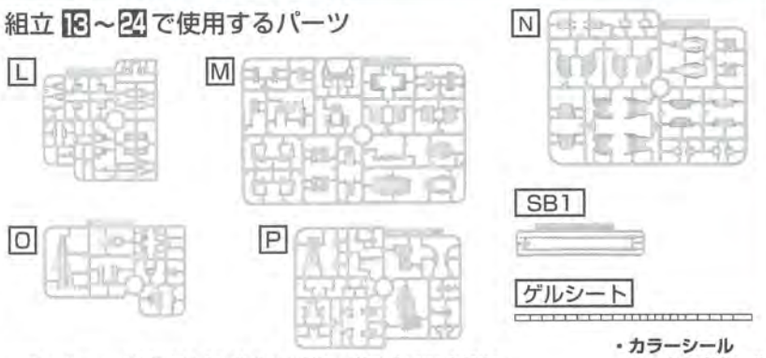


※フルアーマー状態のマーキングガイドは23ページにあります。

※組立図中の記号説明 両側を同じように動かす

13〜24 WEAPONS

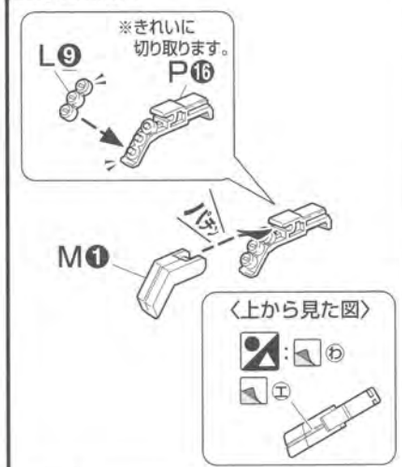
・組立 13〜24 で使用するパーツ



・カラーシール
・マーキングシール

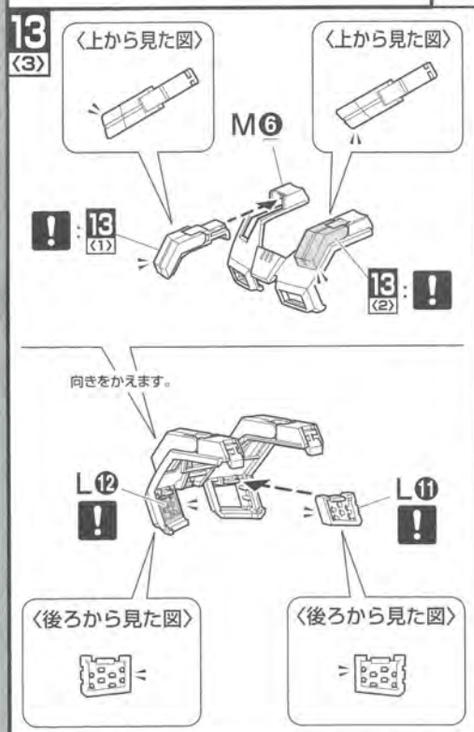
※ゲルシートの使用方法（P6）をよく読んで組み立ててください。

13 〈1〉 〔アーマーの組立〕 ARMOR

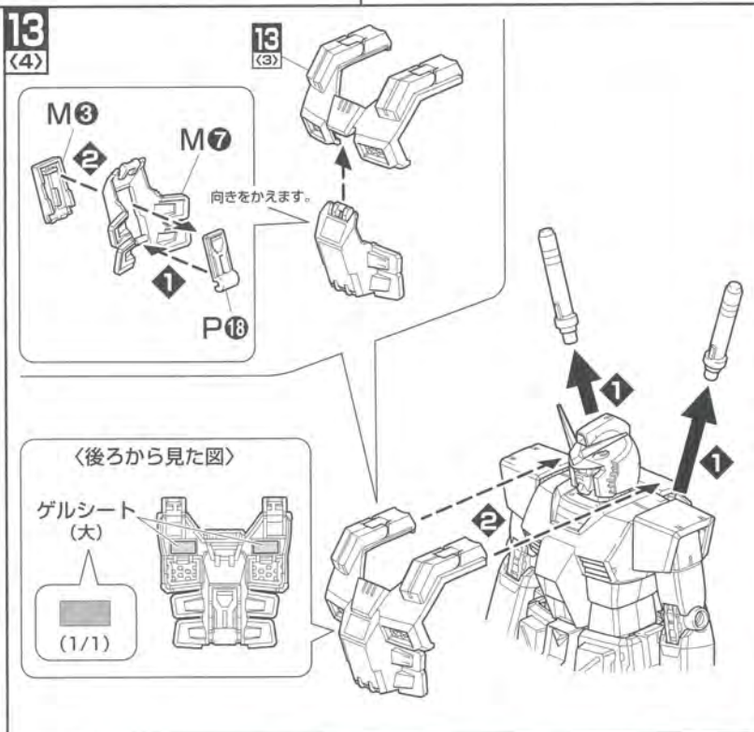


13 〈2〉

13 〈3〉

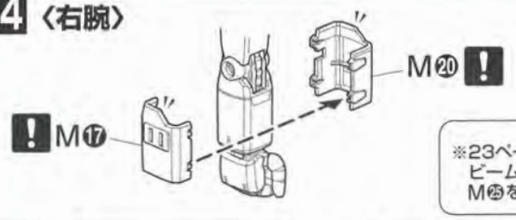


13 〈4〉

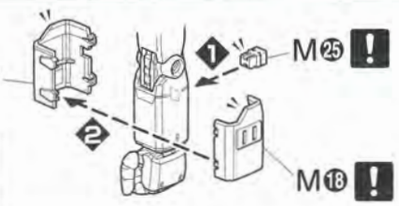


※組立図中の記号説明 どちらかを選んで取りつける / ㋐ シールの番号 / 向きに注意して組み立てる

14 〈右腕〉

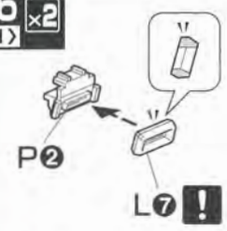


15 〈左腕〉

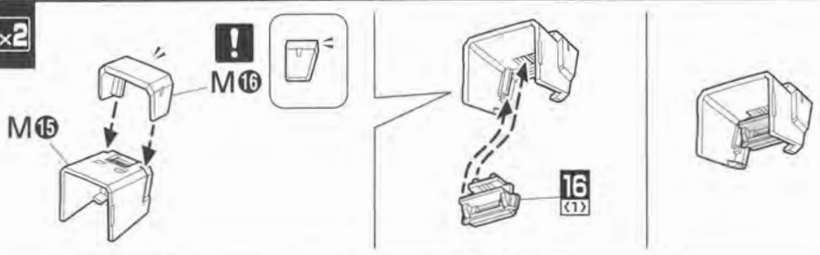


※23ページ[23 (4)]で、左腕に2連装ビーム・ライフルを装着する場合は、M㉕を右腕に取り付けます。

16 〈1〉 ×2

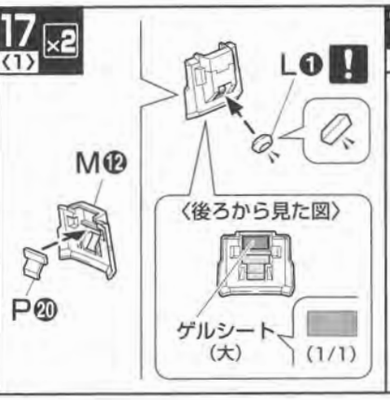


16 〈2〉 ×2

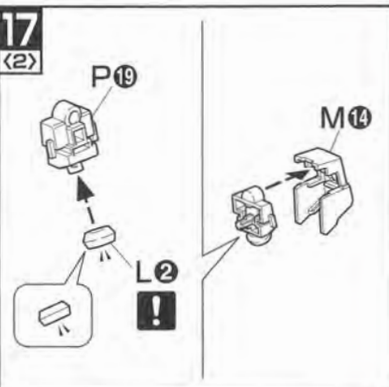


16 〈3〉

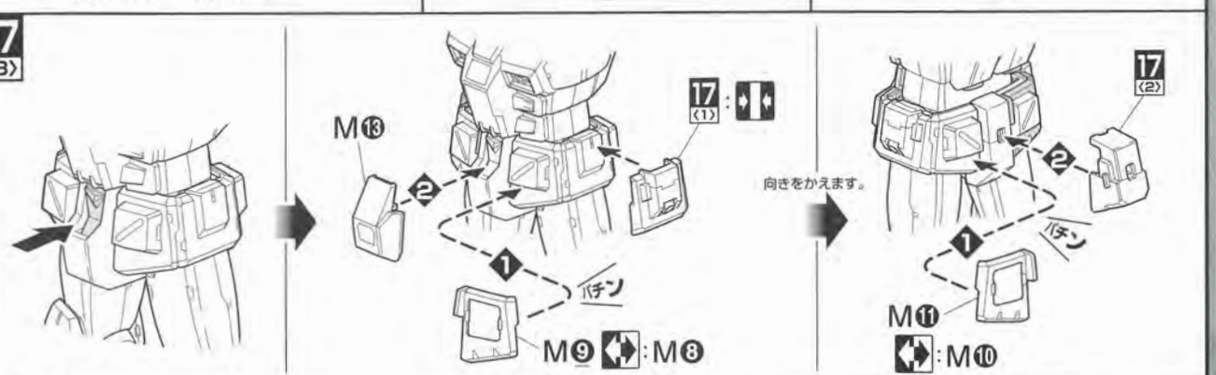
17 〈1〉 ×2



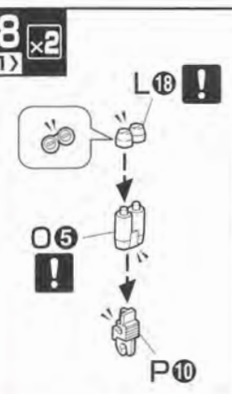
17 〈2〉



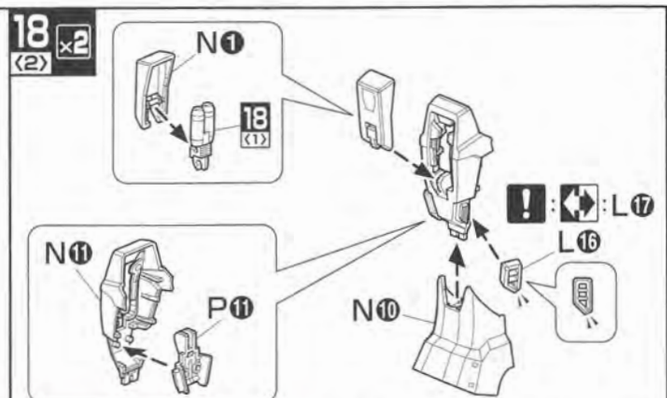
17 〈3〉



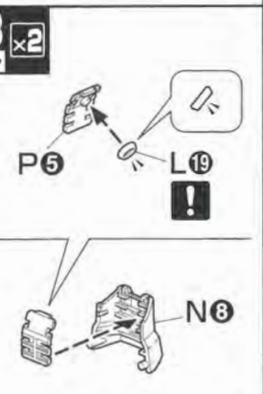
18 〈1〉 ×2



18 〈2〉 ×2

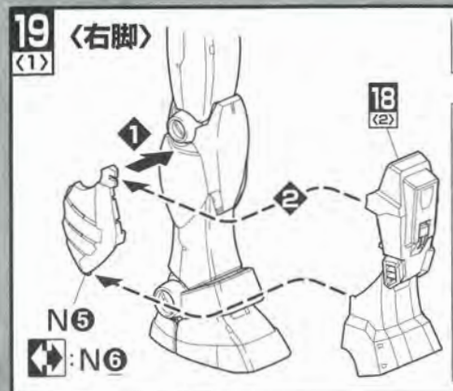


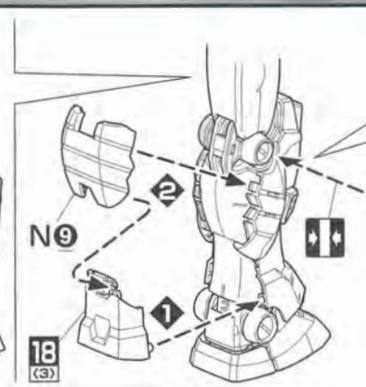
18 〈3〉 ×2

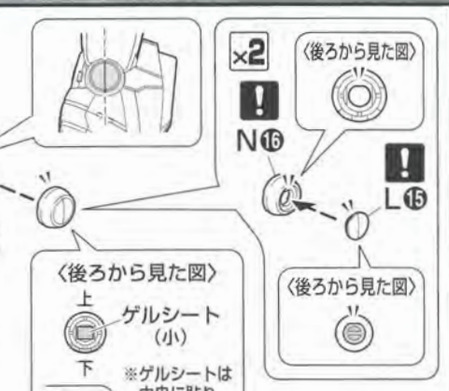


※組立図中の記号説明
- ! 向きに注意して組み立てる
- :◆: 反対側に取り付けるパーツ
- ×2 部品を数値の個数作ります
- :◆: 両側に同じパーツを取りつける

19 〈1〉 〈右脚〉

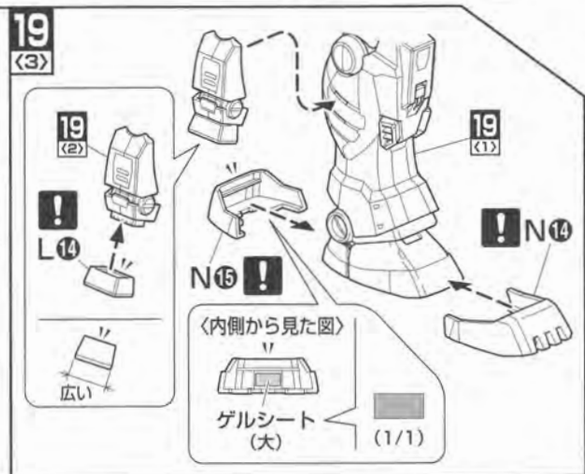




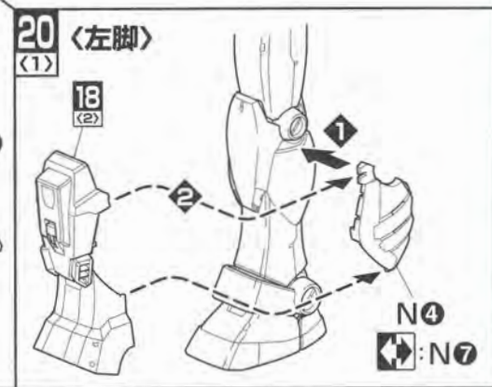


19 〈2〉

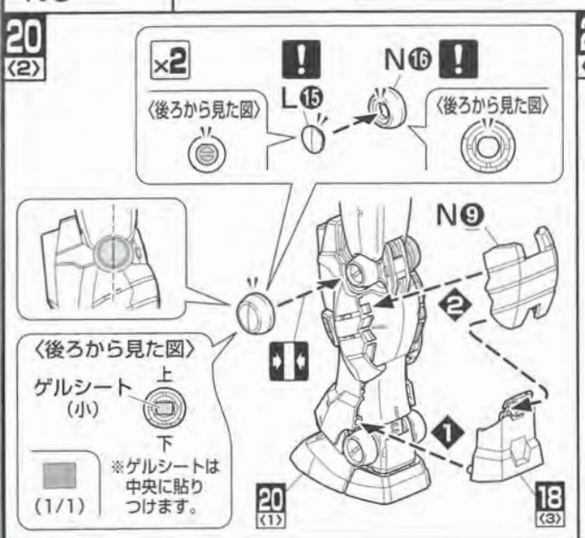
19 〈3〉



20 〈1〉 〈左脚〉

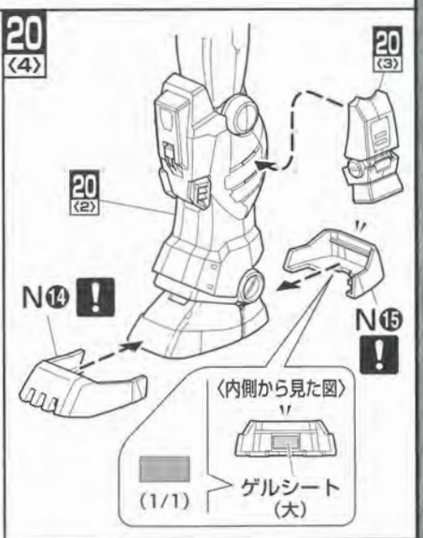


20 〈2〉

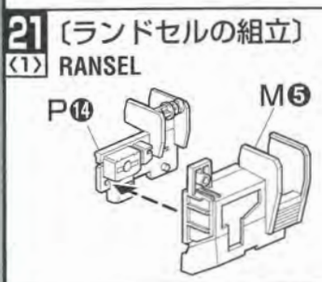


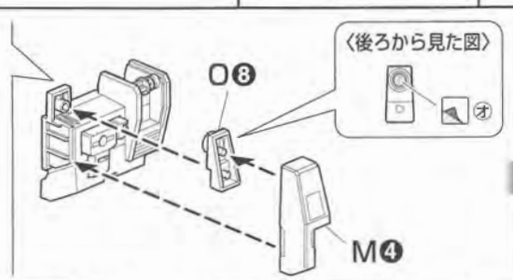
20 〈3〉

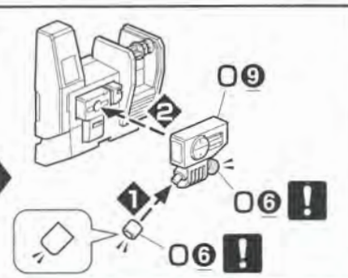
20 〈4〉



21 〔ランドセルの組立〕 〈1〉 RANSEL

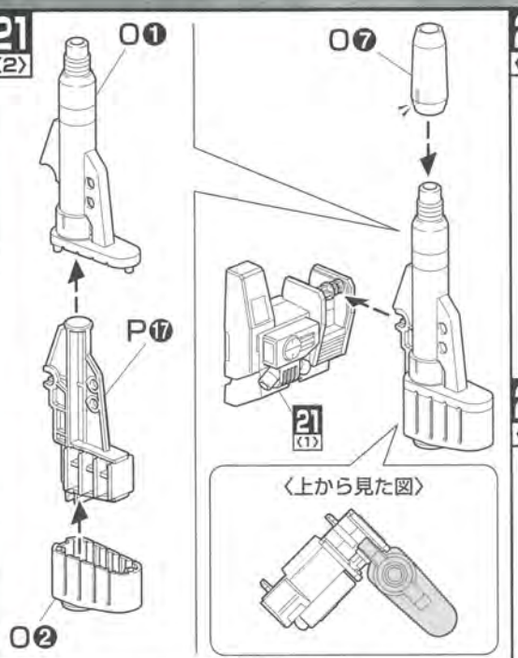




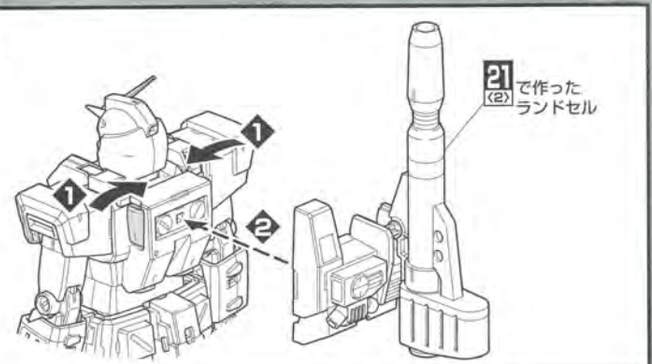


※組立図中の記号説明
- ×2 部品を数値の個数作ります
- ! 向きに注意して組み立てる
- :◆: 両側に同じパーツを取りつける
- ア シールの番号
- :◆: 反対側に取り付けるパーツ

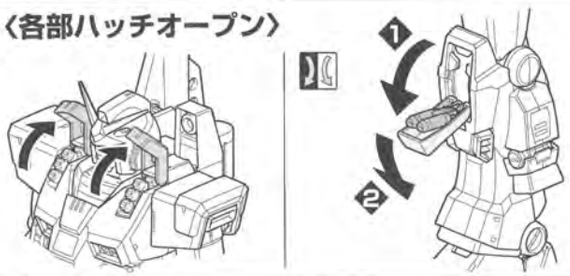
21 〈2〉



21 〈3〉



22 〈1〉 〈各部ハッチオープン〉

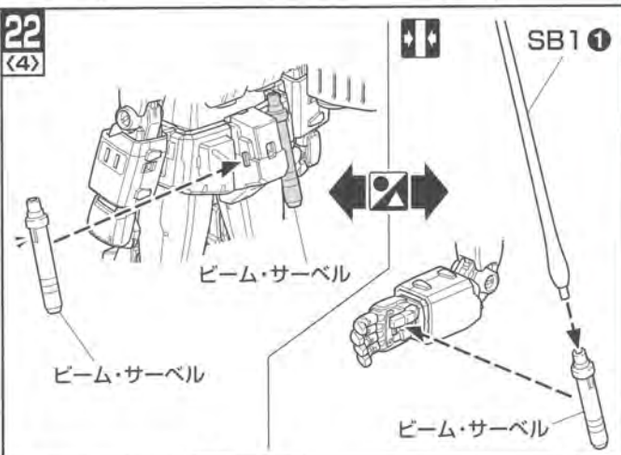


22 〈2〉

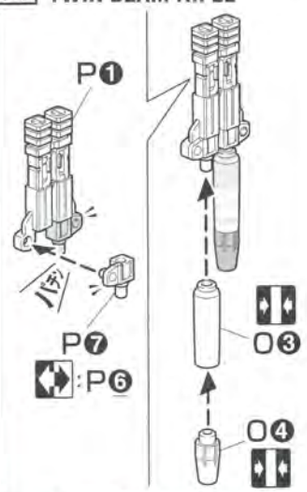
※頭部のアンテナに注意して可動させてください。

22 〈3〉 〈コクピットハッチオープン〉

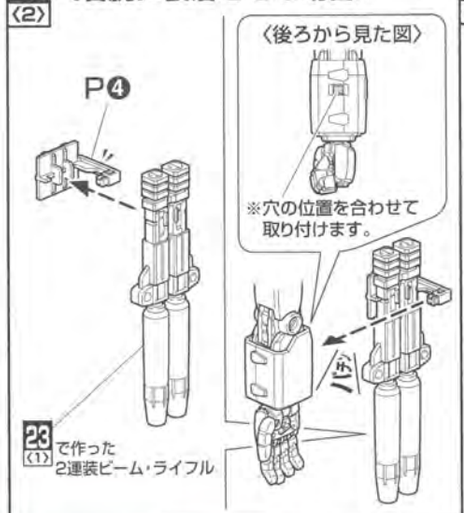
22 〈4〉



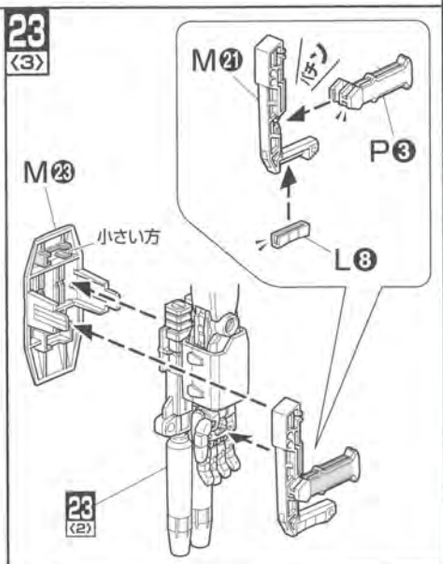
23 〈1〉 〔2連装ビーム・ライフルの組立〕 TWIN BEAM RIFLE



23 〈2〉 〈右腕に装着させる場合〉



23 〈3〉



※組立図中の記号説明

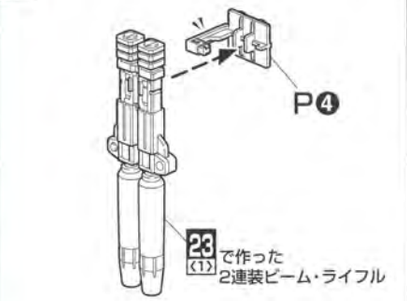
両側を同じように動かす

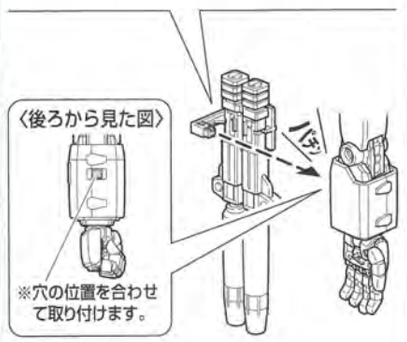
両側に同じパーツを取りつける

どちらかを選んで取りつける

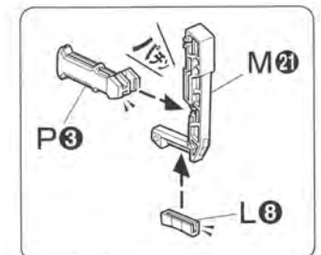
反対側に取り付けるパーツ

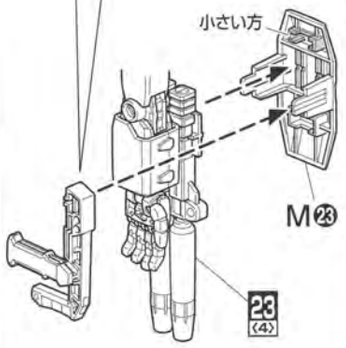
23 〈4〉 〈左腕に装着させる場合〉



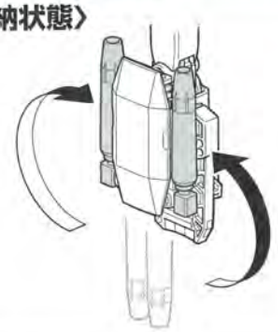


23 〈5〉

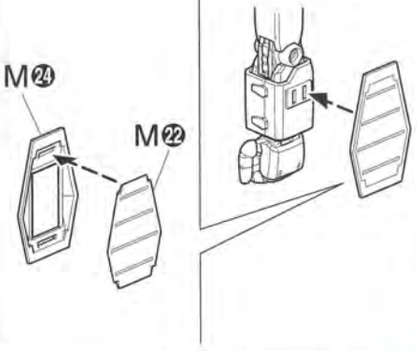




〈収納状態〉



24



Seal

〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

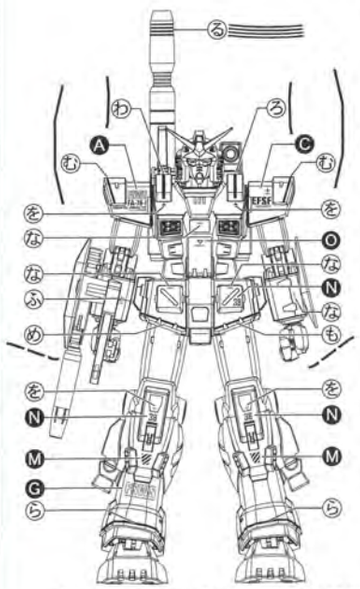
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。
【例】あ・・・マーキングシール Ⓐ・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

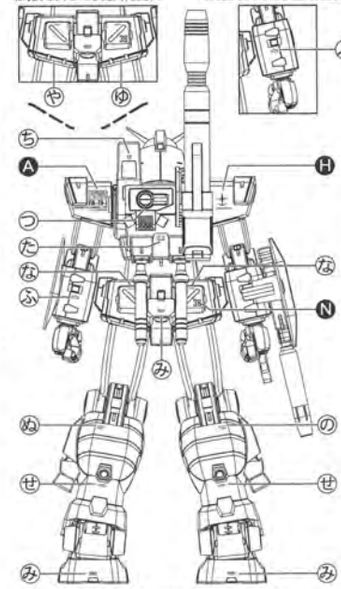
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

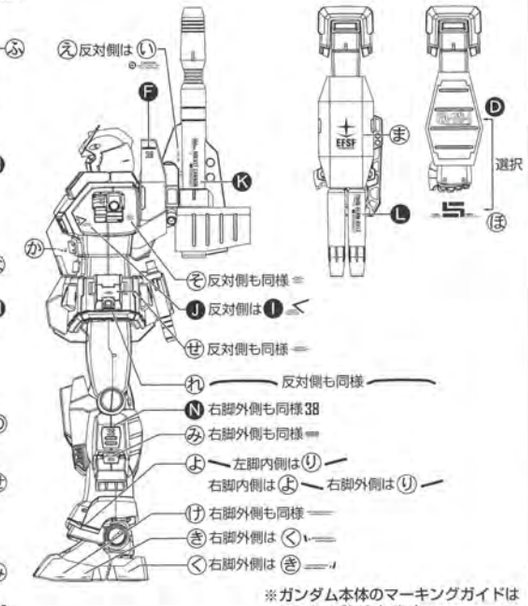
このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

〈武装を外した状態（背面）〉



〈武装を外した状態（背面）〉





※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。

※ガンダム本体のマーキングガイドは18ページにあります。